

**IBM Business Process Manager**  
バージョン 8 リリース 5

**Integration Designer**  
インストール・ガイド

**IBM**



---

## PDF ブックおよびインフォメーション・センター

PDF ブックは、印刷およびオフラインでの参照用に提供されています。最新情報は、オンラインのインフォメーション・センターを参照してください。

セットとして、PDF ブックには、インフォメーション・センターと同一の内容が含まれます。PDF ブック内のリンクの中には、インフォメーション・センターで使用するよう調整されていて、正常に機能しないものがあります。

PDF 資料は、バージョン 7.0 またはバージョン 7.5 など、インフォメーション・センターのメジャー・リリースの後の四半期以内にご利用いただけます。

PDF 資料の更新頻度は、インフォメーション・センターより低いですが、Redbooks® よりも頻繁に更新されます。通常、PDF ブックはブックに十分な変更が累積されたときに更新されます。



# 目次

PDF ブックおよびインフォメーション・センター . . . . .	iii
------------------------------------	-----

## IBM Integration Designer のインストール . . . . . 1

インストール計画 . . . . .	1
テスト環境 . . . . .	1
セキュリティー上の考慮事項 . . . . .	2
共存についての考慮事項 . . . . .	3
非管理ユーザーの考慮事項 . . . . .	4
インストールの準備 . . . . .	4
Linux システムのインストール準備 . . . . .	5
Windows システムのインストール準備 . . . . .	6
製品ランチパッドからのインストール . . . . .	7
標準インストールおよび環境 . . . . .	9
使用可能なフィーチャー . . . . .	10
IBM Integration Designer のサイレント・インストール . . . . .	14
コマンド行を使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール . . . . .	14
応答ファイルを使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール . . . . .	20
BPMConfig を使用したテスト環境プロファイルの作成および構成 . . . . .	22
IBM Installation Manager の使用 . . . . .	25
Installation Manager のインストール (Windows の場合) . . . . .	25
Installation Manager のインストール (Linux の場合) . . . . .	25
Installation Manager の開始 (Windows の場合) . . . . .	26
Installation Manager の開始 (Linux の場合) . . . . .	26
Installation Manager のアンインストール (Windows の場合) . . . . .	26
Installation Manager のアンインストール (Linux の場合) . . . . .	27

プロキシ・サーバーを介した Installation Manager の更新 . . . . .	27
概説 . . . . .	27
サイレント・モードでの Installation Manager のインストールとアンインストール . . . . .	28
Installation Manager のサイレント・インストール . . . . .	28
Installation Manager のサイレント・アンインストール (Windows の場合) . . . . .	29
Installation Manager のサイレント・アンインストール (Linux の場合) . . . . .	29
パッケージ・グループおよび共有リソース・ディレクトリー . . . . .	29
Installation Manager でのリポジトリー設定 . . . . .	30
IBM Integration Designer の始動 . . . . .	31
IBM Integration Designer 始動時の "-clean" オプションの使用 . . . . .	31
Citrix プレゼンテーション・サーバーへのインストール . . . . .	32
Citrix プレゼンテーション・サーバーの構成 . . . . .	33
インストール済み環境の変更 . . . . .	34
IBM Integration Designer のアップグレード . . . . .	35
フィックスパックの対話式インストール . . . . .	35
フィックスパックのロールバック . . . . .	37
フィックスパックのサイレント・インストール . . . . .	37
IBM Integration Designer のアンインストール . . . . .	39
IBM Integration Designer のアンインストール . . . . .	39
サイレント・アンインストール . . . . .	40
コマンド行を使用したサイレント・アンインストール . . . . .	40
応答ファイルを使用したサイレント・アンインストール . . . . .	41
インストール・プロセスのトラブルシューティング . . . . .	43



---

## IBM Integration Designer のインストール

このインストール情報では、IBM® Integration Designer V8.5 とオプション・フィーチャーのインストールおよびアンインストールについて説明します。

製品の制限事項、既知の問題、およびそれらの回避策については、IBM Integration Designer のリリース情報ファイルを参照してください。また、更新された資料とトラブルシューティング情報については、IBM Integration Designer サポート・サイトも参照してください。

### 関連情報:



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

---

## インストール計画

IBM Integration Designer について、実際にソフトウェアをエンタープライズ情報システムに導入する前に、計画を立てておくと、実装するシステムをニーズに適合させることができます。このセクションでは、IBM Integration Designer について計画する方法について説明します。

## テスト環境

ローカル・テスト環境とリモート・テスト環境のどちらを使用するかを選択することができます。リソース (CPU、メモリー、ディスク・スペース) に関する制約があるシステムを使用する開発者は、リモートのテスト環境を構成して、プロセスとモニター・モデルのテスト用に、そのリモート環境にある IBM Integration Designer を参照することを検討してください。

IBM Integration Designer 開発者がリモート環境をセットアップする方法は、ターゲットのデプロイメント環境によって異なります。

## IBM Business Monitor

「IBM Integration Designer for IBM Business Monitor」オプションは、IBM Integration Designer V8.5 のインストール・プログラムから削除されました。このオプションは Integration Designer のランチパッドから使用できなくなりました。

Integration Designer ランチパッドから IBM Business Monitor をインストールすることはできませんが、Integration Designer V8.5 でモニター・モデルを作成して、それらをリモートの Business Monitor V8.0.1 サーバーにデプロイすることができます。

## Process Server

IBM Integration Designer 単体テスト環境では、サーバーをローカルにインストールすることも、リモート・マシンにインストールすることもできます。Process Server をローカルにインストールした場合は、IBM Integration Designer によって検出され、「サーバー」ビューに表示されます。

Process Server をリモートにインストールした場合は、新規サーバーを作成することで、IBM Integration Designer からターゲットに設定することができます。

**重要:** IBM Integration Designer V8.5 以降、IBM Integration Designer 単体テスト環境と IBM BPM Express<sup>®</sup> サーバーを除いて、すべてのサーバーが Network Deployment 構成を使用してインストールされます。Network Deployment 環境でのテストは、IBM Process Server ではサポートされていません。そのため、Process Server がまだ IBM Integration Designer 単体テスト環境の「サーバー」ビューに組み込まれていない状態で、統合モジュールとメディエーション・モジュールのテストに使用するサーバーを作成したい場合は、必ずそのサーバーが Process Server を指すようにしてください。

1. 「サーバー」ビューで右クリックし、「新規」 > 「サーバー」を選択します。
2. 「IBM」 > 「IBM Process Server」を選択します。
3. リモート・サーバー・ホスト名を指定して、「次へ」をクリックします。
4. プロファイル名、接続、およびセキュリティ情報を指定して、「終了」をクリックします。

## Process Center 経由の Process Server

前のセクションで説明したとおり、IBM Integration Designer 単体テスト環境がある場合は、Process Server をローカルにインストールすることも、リモート・マシンにインストールすることもできます。Process Center のみ存在する場合は、Process Center パースペクティブに切り替えることができます。この場合は、Process Center への接続情報を求めるプロンプトが出されます。リモート・サーバーをターゲットに設定するには、以下の手順を実行します。

1. Process Center で、「ウィンドウ」 > 「設定」を選択します。
2. 「ビジネス・インテグレーション」 > 「Process Center」を選択します。
3. Process Center の URI、ユーザー名、およびパスワードを指定します。
4. 「接続のテスト」をクリックします。すべてが正しい場合は、「OK」をクリックします。

Process Center については、『Process Center によるプロセス開発』を参照してください。リモート・サーバーで通信の問題が発生した場合（リモート・サーバーへの公開やサーバー状況の取得の問題など）、『リモート・サーバーでの通信の問題の解決』を参照してください。

## 固有のパッケージ・グループへのインストール

IBM Integration Designer およびテスト環境を、既存の Rational<sup>®</sup> Application Developer 8.0.x インストール済み環境と同じシステム上の固有のパッケージ・グループにインストールすることができます。Installation Manager から、インストール先の選択肢として、新規パッケージ・グループと既存の Rational Application Developer 8.0.x パッケージ・グループが表示されます。

## セキュリティ上の考慮事項

IBM Integration Designer V8.5 では、管理セキュリティとアプリケーション・セキュリティの両方がデフォルトで使用可能です。

IBM Integration Designer V8.5 と共にインストールすることを選択したテスト環境サーバーでは、管理セキュリティとアプリケーション・セキュリティを含むサーバー・セキュリティが自動的に使用可能になります。

**重要:** アプリケーション・セキュリティは、IBM Business Process Manager で必要になるため、管理コンソールでオフにしてはなりません。

テスト環境のインストール中に、サーバー・セキュリティの管理に使用されるユーザー名およびパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

サーバーの管理コンソールで、サーバー・セキュリティーを使用不可または使用可能にした場合、サーバー構成エディターや IBM Integration Designer の「ウィンドウ」 > 「設定」 > 「サーバー」 > 「セキュリティー」の設定ページでも同じサーバーに対してこれらの変更が設定されていることを確認する必要があります。

ユーザー ID とパスワードの変更、およびサーバー・セキュリティーの使用不能化または使用可能化についての情報は、IBM Integration Designer ヘルプのセキュリティー資料にあります（「ヘルプ」 > 「ヘルプ・コンテンツ」を選択）。組み込みのアシスタンス・ヘルプが開きます。「IBM Business Process Manager バージョン 8.0 すべてのプラットフォーム」 > 「Integration Designer のオーサリング・サービス」 > 「IBM Integration Designer でのセキュリティーの管理」にナビゲートします。

## 共存についての考慮事項

1 つのワークステーション上に複数の IBM Eclipse ベース製品をインストールする場合は、このセクションの情報を確認してください。

### オフラインの共存についての考慮事項

いくつかの製品は、同じパッケージ・グループにインストールされたときに共存し、機能を共有する設計になっています。パッケージ・グループとは、共通のユーザー・インターフェースまたはワークベンチを共有する 1 つ以上のソフトウェア製品またはパッケージをインストールできる場所です。各パッケージをインストールするときには、そのパッケージを既存のパッケージ・グループにインストールするか、新しいパッケージ・グループを作成するかを選択します。IBM Installation Manager は、パッケージ・グループを共有するように設計されていない製品、またはバージョンの許容範囲およびその他の要件を満たさない製品をブロックします。一度に複数の製品をインストールする場合は、すべての製品が 1 つのパッケージ・グループを共有できなければなりません。

適格製品であれば、1 つのパッケージ・グループにいくつでもインストールすることができます。製品をインストールすると、その機能がパッケージ・グループ内のほかのすべての製品と共有されます。開発製品とテスト中の製品を 1 つのパッケージ・グループにインストールした場合、どちらかの製品を始動すると、ご使用のユーザー・インターフェース内で、開発とテストの両方の機能が使用可能になります。モデル化ツールを備えた製品を追加した場合は、パッケージ・グループ内のすべての製品で開発、テスト、さらにモデル化の機能を使用できます。

IBM Integration Designer V8.5 を Rational ソフトウェア製品（例えば、Rational Application Developer for WebSphere® Software など）と共存させる場合は、Rational ソフトウェア製品はバージョン 8.0.4 以上である必要があります。Rational ソフトウェア製品がそれより前のバージョンである場合は、バージョンを 8.0.4 以上に更新してこの非互換性を訂正するか、新規パッケージ・グループを選択する必要があります。Rational ソフトウェア製品を IBM Integration Designer V8.5 と同じパッケージ・グループに追加する場合は、Rational のインストール時に、「他のバージョンと拡張の確認 (Check for Other Versions and Extensions)」を使用して、使用可能な更新を検索することによって、またはベースの Rational リポジトリの場所とともに 8.0.4 の更新リポジトリの場所を指すことによって、Rational ソフトウェア製品を必要な 8.0.4（またはそれ以上の）レベルで直接インストールする必要があります。

注：固有の場所にインストールされている各製品は、1 つのパッケージ・グループにのみ関連付けることができます。複数のパッケージ・グループに関連付けるためには、1 つの製品を複数の場所にインストールする必要があります。

## IBM Integration Designer の共存インストール

IBM Integration Designer V8.5 の既存インストールが存在するシステムに IBM Integration Designer V8.5 をインストールすることは可能ですが、この 2 つを同じパッケージ・グループに組み込むことはできません。

同様に、IBM Integration Designer が以前にインストールされているシステムに IBM Integration Designer V8.5 をインストールすることは可能ですが、この 2 つを同じパッケージ・グループに組み込むことはできません。

### 非管理ユーザーの考慮事項

非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をインストールする場合は、インストールを始める前に DB2 サーバーがインストールされている必要があります。インストール中には、入力できるように、データベースの詳細を覚えておいてください。

このトピックで説明する考慮事項は、「標準 (Typical)」インストール・オプションを使用してインストールすることを選択したインストール・シナリオに適用されます。「標準 (Typical)」インストール・オプションを使用してインストールを行うと、プロファイルが自動的に作成されます。

非管理ユーザーとしてインストールを行う場合は、以下の選択肢があります。   

- 製品をインストールする前に、DB2 サーバーを別途インストールします。非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして DB2 をインストールする方法については、以下を参照してください。 

 

-  非 root インストールの概要 (Linux および UNIX)
-  DB2 サーバー製品のインストールに必要なユーザー・アカウント (Windows)
- 管理者としてログオンし、製品インストーラーを使用して DB2 サーバーを単体でインストールします。非管理ユーザーに特別な権限を付与します。次に、非管理ユーザーとしてログオンし、インストールされた DB2 サーバーを使用して製品をインストールします。

詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの以下のトピックを参照してください。

DB2 製品をインストールする前に Windows のシステム特権をセットアップする (Windows)

DB2 サーバー製品のインストールに必要なユーザー・アカウント (Windows)

非 root インストールの概要 (Linux および UNIX)

---

## インストールの準備

インストール・プロセスを開始する前に完了させておく必要があるタスクがいくつかあります。

以前のバージョンの IBM Integration Designer は、V8.5 にアップグレードできません。異なるバージョンの IBM Integration Designer をワークステーション上に共存させることはできませんが、同じディレクトリーにインストールすることはできません。

製品をインストールする前に、以下の手順を完了します。

1. ご使用のシステムが、IBM Integration Designer のシステム要件(IBM Integration Designer)に記載されたハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認します。

2. セクション 1 ページの『インストール計画』を読みます。特に、トピック 3 ページの『共存についての考慮事項』に注意してください。
3. 説明に従って、オペレーティング・システムを準備します。

## Linux システムのインストール準備

IBM Integration Designer をインストールする前に、Linux オペレーティング・システムを準備する必要があります。

Mozilla Firefox のサポートされるバージョンがインストールされていることを確認してください。

一部の手順はオペレーティング・システムの 1 つのバージョンに特定であるため、すべての手順がご使用の環境に該当するとは限りません。手順に修飾子が示されていない場合、その手順はオペレーティング・システムのすべてのバージョンで実行してください。

IBM Integration Designer をインストールする前に、Linux システム上で以下の手順を実行します。

1. WebSphere Application Server は IBM Integration Designer の前提条件であるため、WebSphere Application Server インフォメーション・センターのトピック『Linux システムのインストール準備』に記載されている必要な準備手順をすべて実行します。
2. /etc/security/limits.conf ファイルの最後に以下の行を追加するか、あるいはこれらの行が既に存在する場合は値を変更することにより、許容スタック・サイズ、オープン・ファイルの数、およびプロセスの数を増やします。

```
# - stack - max stack size (KB)
* soft stack 32768
* hard stack 32768
# - nofile - max number of open files
* soft nofile 65536
* hard nofile 65536
# - nproc - max number of processes
* soft nproc 16384
* hard nproc 16384
```

ファイルを保存して閉じ、ログオフしてからもう一度ログインします。オープン・ファイルの現在の最大数を調べるには、**ulimit -n** を使用します。**ulimit** 要件は、インストール時に動的に計算されるので、場合によっては選択したオプションに基づいて大きくする必要があります。この設定について詳しくは、**man limits.conf** を実行するか、または、WebSphere Application Server インフォメーション・センターのトピック『製品インストールのためのオペレーティング・システムの準備』を参照してください。

3. ご使用のオペレーティング・システム用の以下のパッケージをインストールします。

オプション	説明
<b>Red Hat Enterprise Linux 5</b>	libXp-1.0.0-8 rpm-build-4.4.2-37.el5

訂正として新しいパッケージがある場合は、これらのいずれのパッケージについても、より最新のリリースをインストールすることもできます。ご使用のハードウェアに固有の追加パッケージがある場合は、インストールします。

以下のコマンド例で、サポートされる Linux ディストリビューションでデフォルトのパッケージ・マネージャーを使用する方法を説明します。

- **Red Hat Enterprise Linux 5:**

```
yum install libXp rpm-build
```

4. 次のコマンドを使用して、**umask** 値を 022 に設定します。

```
umask 022
```

5. Red Hat Enterprise Linux 5 システムの場合、SELinux を使用不可に設定するか、または許容モードに設定します。
6. コンピューターを再始動します。
7. Linux システムの調整を行うための手順を実行します。
8. 関係するすべてのサーバーが同じ時刻に設定されていることを確認します。アプリケーション・クラスター、サポート・クラスター、およびデータベース・クラスターを含むすべてのクラスター・ノード上の、すべてのサーバーに、同じネットワーク時間プロトコルを使用してください。時刻が一致していなければ、システム・タスクが重複するなど、動作が不安定になります。
9. DB2 を使用する場合は、すべての DB2 パラメーターが DB2 の命名規則を満たすようにしてください。

## Windows システムのインストール準備

IBM Integration Designer をインストールするには、まず Windows オペレーティング・システムを準備する必要があります。

IBM Integration Designer のインストールで DB2 Express を使用する場合は、ユーザー・アカウントに、インストールを実行するマシンに対する管理特権が設定されている (管理者である) 必要があります。

WebSphere Application Server は IBM Integration Designer テスト環境の前提条件となるため、テスト環境を使用する場合は、IBM Integration Designer をインストールする前に WebSphere Application Server の準備タスクをすべて完了しておく必要があります。

IBM Integration Designer をインストールする前に、Windows システムで以下の手順を実行します。

1. WebSphere Application Server インフォメーション・センターのトピック『Windows システムのインストール準備』に記載されている手順を実行します。
2. Windows システムの調整を行うための手順を実行します。
3. 関係するすべてのサーバーが同じ時刻に設定されていることを確認します。アプリケーション・クラスター、サポート・クラスター、およびデータベース・クラスターを含むすべてのクラスター・ノード上の、すべてのサーバーに、同じネットワーク時間プロトコルを使用してください。時刻が一致していなければ、システム・タスクが重複するなど、動作が不安定になります。
4. Windows 2008 R2 にインストールし、IBM Integration Designer インストールの一部として DB2 Express をインストールする場合、互換性のある Microsoft Visual C++ 再配布可能パッケージがあることを確認してください。DB2 インフォメーション・センターの『db2start コマンド実行時のエラー』を参照してください。
5. チェコ語のロケールを使用している場合、システム設定を変更して、IBM Process Portal および IBM Process Designer で壊れた文字が表示されないようにする必要があります。以下の手順を実行して、Windows の設定を変更します。
  - a. 「地域と言語のオプション」をクリックして、「管理」タブを開きます。
  - b. 「Unicode 対応ではないプログラムの言語」セクションで、「システム ロケールの変更 . . .」をクリックしてロケール・リストを開きます。
  - c. リストから「チェコ語」を選択し、「OK」をクリックします。

6. DB2 を使用する場合は、すべての DB2 パラメーターが DB2 の命名規則を満たすようにしてください。

---

## 製品ランチパッドからのインストール

製品ランチパッドを使用すると、一箇所で IBM Integration Designer のインストールを実行することができます。

4 ページの『インストールの準備』の説明に従って、インストール前のタスクを完了します (まだ完了していない場合)。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。DB2 データベースは、ローカルにインストールする必要があります。

非管理者ユーザーまたは非 root ユーザーである場合、データベースを作成するための許可が必要です。製品ランチパッドを介した標準インストールでは、この権限が検証されます。データベースを作成するための権限がない場合、以下の手順を実行してください。

- ▶ **Windows** ユーザーを **DB2ADMNS** グループに追加します。ユーザーをグループに追加する方法について詳しくは、『DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グループへのユーザー ID の追加 (Windows)』を参照してください。
- ▶ **Linux** DB2 インスタンス・ユーザーのプライマリー・グループにユーザーを追加します。ユーザーをグループに追加する方法について詳しくは、『DB2 データベースのインストールのためのグループおよびユーザー ID の作成 (Linux および UNIX)』を参照してください。

▶ **Windows** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 で IBM Integration Designer をインストールまたは実行するには、Microsoft Windows のユーザー・アカウント特権を昇格させることが必要です。管理ユーザーとしてインストールするには、`launchpad.exe` を右クリックし、「**管理者として実行**」を選択します。

以下の場合には、製品ランチパッドを使用して IBM Integration Designer の標準インストールを開始してください。

- 製品 DVD からインストールする場合。
- ローカル・ファイル・システム上の電子インストール・イメージからインストールする場合。
- 共有ドライブ上の電子インストール・イメージからインストールする場合。

ランチパッド・プログラムを開始するには、以下の手順を実行します。一度に実行できるランチパッドは 1 つだけです。

1. 最初の IBM Integration Designer DVD を DVD ドライブに挿入します。

▶ **Linux** DVD ドライブがマウントされたことを確認します。あるいは、ダウンロード可能イメージからすべてのファイルを抽出します。すべてのファイルを、ハード・ディスク上の同じ場所に抽出する必要があります。プロンプトが出されたら、ディレクトリーを上書きします。

2. システムで自動実行機能が有効になっている場合、IBM Integration Designer ランチパッド・プログラムが自動的に起動されます。システムで自動実行が有効になっていない場合、または DVD を使用しない場合は、次のようにします。

- DVD または抽出したファイルのルート・ディレクトリーにある **launchpad.sh** を実行します。端末ウィンドウから実行する場合は、端末ウィンドウの現行ディレクトリーが、マウントされたファイル・システムの外部となるようにしてください。例えば、ホーム・ディレクトリーを使用して、**launchpad.sh** へのパスを指定します。
  - DVD または抽出したファイルのルート・ディレクトリーにある **launchpad.exe** (64 ビット・システムの場合は **launchpad64.exe**) を実行します。
3. インストールする標準のインストール環境を選択します。 選択内容に応じて、次の画面に必要なフィーチャーが強調表示されます。環境は、IBM Integration Designer において、後で変更することができます。詳しくは、9 ページの『標準インストールおよび環境』を参照してください。
  4. 「次へ」をクリックして先に進みます。
  5. インストールのロケーションを指定します。

デフォルトのインストール・パスは以下のとおりです。

-  Windows C:¥IBM¥IID¥v8.5
  -  Linux root: /opt/IBM/IID/v8.5
  -  Linux 非 root: *user\_home*/IBM/IID/v8.5
6. インストールする IBM Integration Designer のフィーチャーを選択します。詳しくは、10 ページの『使用可能なフィーチャー』を参照してください。

**注:** このフィーチャーは、**IBM Integration Designer for IBM Business Process Manager Advanced - Process Server** と **IBM Integration Designer** のインストール・オプションに対してのみ選択できません。

7. 「次へ」をクリックして先に進みます。
8. Process Server のテスト環境の情報を指定します。

**注:** **IBM Integration Designer for IBM Business Process Manager Advanced - Process Server** のインストール・オプションを選択した場合のみ、Process Server の情報を指定する必要があります。

- **ホスト名:** このフィールドには、ご使用のマシンの名前が表示されます。
- **ロケーション:** 「参照」をクリックして、インストールのロケーションを変更します。
- テスト環境のデフォルトのインストール・パスは、以下のとおりです。

-  Windows C:¥IBM¥IID¥PS¥v8.5
-  Linux root: /opt/IBM/IID/PS/v8.5
-  Linux 非 root: *user\_home*/IBM/IID/PS/v8.5

- セルの管理アカウントの「ユーザー名」および「パスワード」を指定します。セル管理者は、WebSphere Application Server の 1 次管理者です。このロールに割り当てられているユーザーは、他の管理者ロールを割り当てることができ、セルとトポロジーの管理を行います。このロールに割り当てられているユーザーは、IBM Integration Designer コンポーネントの管理は行いません。このロールは、すべてのインターフェースに対するアクセス権限を提供します。これにより、ユーザーは、プロセス・アプリケーションとツールキットを含む、使用可能なすべてのタイプのライブラリー項目とライブラリー資産を変更または削除することができます。また、このロールを使用すると、Process Server、Performance Data Warehouse、内部ユーザー、内部グループの管理も行うことができます。Process Center サーバー上にプロセス・アプリケーションをデプロイするユーザーは、このロールが割り当てられている必要があります。

9. 「次へ」をクリックして先に進みます。
10. DB2 データベース接続用の「ユーザー名」と「パスワード」を指定します。
11. 「次へ」をクリックして先に進みます。
12. 「インストールの要約」ページで、インストール・オプションを検証し、ご使用条件を確認します。ご使用条件の条項に同意する場合は、「ご使用条件および特記事項を読んで内容を承諾しました」を選択します。
13. これまでのページで行った選択を変更するには、「戻る」をクリックして変更します。インストールの選択内容に問題がない場合は、「ソフトウェアのインストール」をクリックしてパッケージをインストールします。「インストール情報」ページにインストール・ロケーションが表示され、インストールする製品とそのフィーチャーが表示されます。また、インストール前に作成した DB2 データベースも表示されます。インストールの完了のパーセンテージが進行標識で示されます。

**ヒント:**  DVD からインストールするときに、イジェクト・エラーが発生して最初のディスクをイジェクトできない場合は、端末ウィンドウで、マウントされたファイル・システム内の現行ディレクトリーから `launchpad.sh` が実行されていることを示します。「**端末で実行 (Run in Terminal)**」をダブルクリックして選択することにより `launchpad.sh` を開始した場合は、ディスクをイジェクトする前に、端末を閉じる必要があります。端末ウィンドウで `launchpad.sh` を開始した場合、ディスクをイジェクトするには以下のステップを実行します。

- a. Ctrl + Z を押してプロセスを一時停止します。
- b. bg 1 と入力して、プロセスをバックグラウンドに移動します。
- c. マウントされたファイル・システムの外部にあるディレクトリーに移動します。
- d. ディスクをイジェクトします。

イジェクト・エラー・メッセージが発生しないようにするには、端末ウィンドウの現行ディレクトリーが、マウントされたファイル・システムの外部 (例えば、ホーム・ディレクトリー) となるようにし、実行時には `launchpad.sh` への絶対パスを指定します。

これで、完全な機能を備えた IBM Integration Designer と、Process Server のテスト環境 (選択した場合) がインストールされました。

#### 関連情報:



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## 標準インストールおよび環境

IBM Integration Designer のインストール時に、ランチパッドから標準インストール構成を選択します。選択する事前選択された構成によって、IBM Integration Designer の開始時に使用可能になる環境が決まります。インストール時に構成の選択を変更できるほか、後で Installation Manager を実行して変更することもできます。また、後で IBM Integration Designer で環境を変更することもできます。

## IBM Integration Designer for IBM Business Process Manager Advanced - Process Server

このインストール構成には、IBM Process Server のテスト環境が含まれ、IBM Business Monitor をサポートします。以下のコンポーネントがインストール対象として選択されます。

- WebSphere Application Server Network Deployment
- IBM Business Process Manager Advanced - Process Server
- DB2 Express

注: DB2 Express は、DB2 がローカルにインストールされていない場合のみインストールされます。非 root ユーザーまたは非管理者ユーザーの場合は、DB2 をローカルにインストールしておく必要があります。

- Integration Designer

## IBM Integration Designer for WebSphere DataPower

このインストール構成は、WebSphere DataPower アプライアンスと直接連携し、テスト環境は含まれません。Integration Designer パッケージのみがインストール対象として選択されます。

## IBM Integration Designer

このインストール構成には、テスト環境は含まれません。Integration Designer パッケージのみがインストール対象として選択されます。

## 使用可能なフィーチャー

インストールする IBM Integration Designer のフィーチャーを選択することにより、ソフトウェア製品をカスタマイズすることができます。

ランチパッドを使用して IBM Integration Designer 製品をインストールする場合、製品のどのフィーチャーをインストールするかを、要件に合わせて選択することができます。デフォルトのフィーチャー・セット (必須のフィーチャーを含む) は既に選択されています。ランチパッドは、フィーチャー間の依存関係を自動的に適用し、必須のフィーチャーをクリアできないようにします。

アダプターは、個別に選択できます。必要なアダプターのみをインストールしてください。

注: 製品のインストールが終了した後でも、Installation Manager の「パッケージの変更」ウィザードを実行することにより、ソフトウェア製品に対してフィーチャーの追加や削除を行うことができます。詳細については、34 ページの『インストール済み環境の変更』を参照してください。

以下の表に、インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャーを示します。インストールするフィーチャーのデフォルトの選択は、これと異なる場合があります。フィーチャーが既にインストールされている場合は、そのフィーチャーはデフォルトでは選択されず、再度インストールされることはありません。

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
IBM Integration Designer		IBM Integration Designer のコア機能。包括的な開発環境で統合ソリューションを構築するためのツールを提供します。	はい (必須)
ローカル・サーバーをインストールせずにアプリケーションを開発するためのツール		このオプションは、このサーバーがローカルにはインストールされていない場合に、IBM Process Server V8.5、または WebSphere Enterprise Service Bus V8.5 用のアプリケーションを開発したり、これらの V8.5 のリモート・サーバーに接続したりするために選択します。	いいえ

表 1. インストールすることを選択できる *IBM Integration Designer* のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
E メール、フラット・ファイル、FTP、および JDBC IBM WebSphere アダプター		WebSphere Adapter for Email を使用して E メール・サーバーとの間で E メールを送受信します。WebSphere Adapter for Flat Files を使用してローカル・ファイル・システム上のファイルの読み取りおよび書き込みを行います。WebSphere Adapter for File Transfer Protocol (FTP) を使用してリモート・システム上のファイルの読み取りおよび書き込みを行います。WebSphere Adapter for JDBC を使用してデータベース・システムに関するサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	はい

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
その他の IBM WebSphere アダプター		Adapters は、エンタープライズ情報システム (EIS) 上のプログラムやデータにアクセスします。	いいえ
	CICS アダプター	顧客情報管理システム (CICS) トランザクション・システム上の COBOL、C、PL/I プログラムおよびデータと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	Domino アダプター	IBM Domino サーバーと情報交換を行うサービスを作成します。Domino 文書の作成およびアクセスが可能な統合プロセスを、特別なコーディングをせずに作成します。Outbound 処理では、アダプターは <b>Create</b> 、 <b>Retrieve</b> 、 <b>Update</b> 、 <b>Delete</b> 、 <b>Exists</b> 、および <b>RetrieveAll</b> 操作をサポートします。アダプターは、要求をビジネス・オブジェクトの形でサービスから受信し、その要求を処理して、呼び出し側コンポーネントに応答を返送します。一方、Inbound 処理では、アダプターは、処理できる状態にある Lotus Domino のために、Lotus Domino サーバーを一定の間隔でポーリングします。	いいえ
	ECM アダプター	WebSphere Adapter for Enterprise Content Management を使用して、エンタープライズ・コンテンツ管理システムにコンテンツを作成し、このコンテンツにアクセスします。	いいえ
	IMS アダプター	IBM 情報管理システム (IMS) トランザクション・システム上の COBOL、C、PL/I プログラムおよびデータと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	iSeries アダプター	プログラム呼び出しマークアップ言語 (PCML) 標準を使用してターゲット IBM i マシン上の RPG、COBOL、およびサービス・プログラムを呼び出すサービスを作成して、このサービスにアクセスし、IBM i データ・キューへのメッセージを送受信します。	いいえ
	JD Edwards アダプター	WebSphere Adapter for JD Edwards EnterpriseOne を使用して JD Edwards EnterpriseOne Server に関するサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	Oracle アダプター	Oracle E-Business Suite と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	PeopleSoft アダプター	WebSphere Adapter for PeopleSoft Enterprise と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
	SAP アダプター	SAP サーバーと情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ
Siebel アダプター	Siebel Business Application Server と情報交換を行うサービスを作成し、このサービスにアクセスします。	いいえ	
WebSphere Adapter Toolkit	JCA リソース・アダプターの作成を支援するための開発ツール、ライブラリー、およびサンプル・コードを提供します。	いいえ	

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
Windows モニター・モデル・エディター		モニター・モデルの作成に役立つウィザードおよびライブラリーを提供します。モニター・モデル・エディターは、IBM Integration Designer 環境にインストールされます。	はい
クライアント開発ツール		多くのアプリケーションには、利用者またはスタッフがデータを入力するためのクライアント・インターフェースが必要です。このツール・グループは、アプリケーション用のカスタマイズされたクライアントを作成できるように提供されます。	いいえ
	Web 開発ツール	JavaServer Faces (JSF)、JavaServer Pages (JSP)、サーブレット、および HTML を使用して Web 2.0 および Java EE Web アプリケーションを作成するためのツールを提供します。また、Java EE Web アプリケーションを開発するための Apache Struts フレームワークも提供します。	いいえ
	WebSphere Portal Server バージョン 6.1	WebSphere Portal Server のオプションは、ポータル・アプリケーションを作成、カスタマイズ、テスト、デバッグ、およびデプロイするためのツールを提供します。サーバーをローカルにインストールしていない環境で	いいえ
	WebSphere Application Server バージョン 8.0 の WebSphere Portal Server バージョン 6.1	WebSphere Portal Server のアプリケーションを開発する場合は、「ローカル・サーバーをインストールせずにアプリケーションを開発するためのツール」オプションを選択します。	いいえ
	WebSphere Portal Server バージョン 7.0		いいえ
ライフ・サイクル統合クライアント		資産リポジトリを提供し、IBM Rational Team Unifying Platform 用の統合およびクライアント・プラグインを提供します。	いいえ
	資産リポジトリ・クライアント	資産リポジトリ・クライアントは、ビジネス・プロセス・マネージメント (BPM) の成果物を保管および共有するための、中央のアクセス可能な場所です。資産リポジトリ・クライアントが接続できるよう、IBM Rational Asset Manager がサーバーにインストールおよび構成されている必要があります。	いいえ
	Rational ClearCase® SCM アダプター	IBM Rational ClearCase SCM および ClearCase MVFS プラグインを提供します。これらは、ClearCase VOB (Versioned Object Base) およびビュー・サーバーもインストールされている場合に、スナップショット・ビューおよび動的ビューを使用して、ClearCase VOB 内のソフトウェア成果物のバージョン管理を可能にします。	いいえ

表 1. インストールすることを選択できる IBM Integration Designer のフィーチャー (続き)

フィーチャー・グループ	フィーチャー	説明	デフォルトでの選択
その他の開発ツール		テーブル、ビュー、およびフィルターを処理するためのリレーショナル・データベース・ツールを提供します。これらのツールを使用すると、リバース・エンジニアリング・データベース表によって、あるいは DDL スクリプトを使用して、物理データベース・モデルを作成できます。さらに、これらのツールを使用して、SQL ステートメント、DB2 ルーチン (ストアド・プロシージャやユーザー定義関数など)、さまざまなタイプのファイルを作成することもできます。また、Java クラス、エンタープライズ Bean、その他のコード・エレメントおよび成果物を表すために使用できるグラフィカル編集環境も提供します。	いいえ

#### 関連タスク:

31 ページの『IBM Integration Designer 始動時の "-clean" オプションの使用』  
**-clean** オプションを IBM Integration Designer の始動時に使用することができます。このオプションはいくつかの機能を実行します。

## IBM Integration Designer のサイレント・インストール

IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・インストール・モードでインストールできます。サイレント・モードでインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。

**重要:** 1 つの IBM Installation Manager だけで、IBM Integration Designer の複数のインスタンスをインストールできます。

#### 関連タスク:

22 ページの『BPMConfig を使用したテスト環境プロファイルの作成および構成』  
 プロファイル設定に必要なすべての値が指定されたプロパティ・ファイルを **BPMConfig** コマンドで使用すると、IBM Process Server のテスト環境用のプロファイルを作成して構成することができます。

#### 関連資料:

 [IBM Integration Designer のシステム要件](#)

## コマンド行を使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール

コマンド行を使用して、IBM Integration Designer をインストールできます。

IBM Integration Designer をインストールする前に、製品のシステム要件を確認してください。

オペレーティング・システムおよびソフトウェアの前提条件レベルが特に重要です。インストール・プロセスでは前提条件オペレーティング・システム・パッチが自動的に検査されますが、まだ確認していない場合はシステム要件を確認してください。システム要件リンクには、すべてのサポートされているオペレーティング・システムと、対応したオペレーティング・システムにするためにインストールしなければならないオペレーティング・システムのフィックスおよびパッチがリストされています。さらに、すべての前提ソフトウェアの必要レベルも記載されています。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。DB2 データベースは、ローカルにインストールする必要があります。

IBM Integration Designer のインストールに必要な前提条件の基本製品がない場合、サイレント・インストールの一部としてそれをインストールする必要があります。必要な基本製品は以下のとおりです。

- Installation Manager
- WebSphere Application Server Network Deployment (テスト環境をインストールする場合)

サイレント・インストールでは、以下のタスクが実行されます。

- Installation Manager がまだインストールされていない場合はインストールし、既にインストールされている場合は適切なレベルに更新します。
- 必要な基本製品および IBM Integration Designer をインストールします。

IBM Integration Designer をサイレント・インストールするには、以下の手順を実行します。

1. IBM Installation Manager を使用して以下のコマンドを実行し、DB2 に安全に接続するための暗号化されたパスワードを生成します。

**重要:** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 を実行している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択してコマンド・プロンプトを開始します。

> Windows

```
IM_location\eclipse\tools\imutilsc -silent -nosplash  
encryptString password_to_encrypt
```

> Linux

```
IM_location/eclipse/tools/imutilsc -silent  
-nosplash encryptString password_to_encrypt
```

2. インストールを行う前に、ライセンス条項を読み、同意します。 **-acceptLicense** をコマンド行に追加すると、すべてのライセンスに同意したことになります。
3. 次のコマンドを実行します。

**重要:** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 を実行している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択してコマンド・プロンプトを開始します。

> Windows

```
extract_directory%disk1\IM_win32\tools\imcl install  
list_of_product_IDS -acceptLicense -installationDirectory location -repositories  
repository -showVerboseProgress -log logName.log
```

**注:** 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory\IM_win64\tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

> Linux

```
extract_directory/disk1/IM_linux/tools/imcl install list_of_product_IDS  
-acceptLicense -installationDirectory location -repositories repository  
-showVerboseProgress -log logName.log
```

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory/IM_linux64/tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。  
ここで、

- `list_of_product_IDs` は、インストールする製品の ID のスペースで区切られたリストです。

表 2. 製品 ID

製品	製品 ID	フィーチャー	説明
IBM Integration Designer	com.ibm.integration.designer.v85	必須: com.ibm.wid、 com.ibm.rad.jre、 com.ibm.wid.product、 com.ibm.rad.jee5、 com.ibm.rad.was80_devtools、 com.ibm.rad.was85_devtools、 com.ibm.rad.j2c、 com.ibm.rad.birt、 com.ibm.rad.transform_authoring、 および com.ibm.rad.pde	必須フィーチャー
		オプション: com.ibm.wid.bpm.stubs	ローカル・サーバーをインストールせずにアプリケーションを開発するためのツール
		オプション: com.ibm.wid.adapters.file	E メール、フラット・ファイル、FTP、および JDBC IBM WebSphere アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.cics	CICS アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.domino	Domino アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.ecm	ECM アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.ims	IMS アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.ios	iSeries アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.jde	JD Edwards アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.oracleebs	Oracle アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.peoplesoft	PeopleSoft アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.sap	SAP アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.siebel	Siebel アダプター
		オプション: com.ibm.wid.adapters.wat	WebSphere Adapter Toolkit
		オプション: com.ibm.wid.adapters.wola	WebSphere Optimized Local Adapter
		オプション: com.ibm.wid.mme	モニター・モデル・エディター (Windows のみ)
		オプション: com.ibm.rad.webtools_core	Web 開発ツール
		オプション: com.ibm.rad.portal.v70.tools	WebSphere Portal Server Beta 開発ツール
		オプション: com.ibm.ram.core.client	資産リポジトリー・クライアント
		オプション: com.ibm.rad.clearcase	Rational ClearCase SCM アダプター
		オプション: com.ibm.wid.dev_tools	その他の開発ツール
オプション: com.ibm.wid.bpmps.user	IBM Business Process Manager Advanced - Process Server 環境		
オプション: com.ibm.wid.bmpc.user	IBM Business Process Manager Advanced 環境		
オプション: com.ibm.wid.wesb.user	WebSphere Enterprise Service Bus 環境		
オプション: com.ibm.wid.wbm.user	IBM Business Monitor 環境 (Windows のみ)		
オプション: com.ibm.wid.datapower.user	WebSphere Datapower 環境		
Installation Manager	com.ibm.cic.agent	agent_core	Installation Manager コア・コンテンツ
		agent_jre	Installation Manager JRE

- `location` は、製品がインストールされるディレクトリーへのパスです。
- `repository` は、ファイルを抽出したりリポジトリーのパスであり、以下の 1 つ以上のディレクトリーです。

```
extract_directory/disk1/IM_win32
extract_directory/disk1/IM_linux
extract_directory/disk1/diskTag.inf
```

複数のリポジトリーを指定する場合は、リポジトリーの場所をコンマで区切ってください。

- `logName` は、メッセージおよび結果が記録されるログ・ファイルの名前です。

このコマンドを実行すると、デフォルト・フィーチャーの製品がインストールされます。特定のフィーチャーをインストールする場合、またはその他の変更を行う場合は、`imcl` のコマンド行引数に関する参照リンクを参照してください。

4. テスト環境もインストールする場合、別のインストール・ディレクトリーと、必要な製品 ID およびキーを指定して、同じコマンドを実行します。

Windows

```
extract_directory¥disk1¥IM_win32¥tools¥imcl install list_of_product_IDs
-acceptLicense -testInstallationDirectory location -repositories
repository -properties key=value,key=value
-showVerboseProgress -log logName.log
```

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory¥IM_win64¥tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

Linux

```
extract_directory/disk1/IM_linux/tools/imcl install list_of_product_IDs
-acceptLicense -testInstallationDirectory location -repositories repository
-properties key=value,key=value -showVerboseProgress -log logName.log
```

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory/IM_linux64/tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

ここで、

- `list_of_product_IDs` は、インストールする製品の ID のスペースで区切られたリストです。

表 3. テスト環境用の製品 ID

製品	製品 ID	フィーチャー	説明
IBM Integration Designer	com.ibm.bpm.PS.v85	<b>AdvancedProcessServer. NonProduction</b>	テスト、ステージング、 または開発用  このフィーチャーまたは bpmAdvPS.prod を指定す る必要があります。

表 3. テスト環境用の製品 ID (続き)

製品	製品 ID	フィーチャー	説明
WebSphere Application Server Network Deployment	com.ibm. websphere. ND.v80	core.feature	必須の WebSphere Application Server コア・ コンテンツ
		ejbdeploy	EJB 3.0 より前のモジュ ール
		thinclient	スタンドアロン・シン・ クライアントおよびリソ ース・アダプター
		embeddablecontainer	埋め込み可能 EJB コンテ ナー
		サンプル	サンプル・アプリケーシ ョン・フィーチャー
		com.ibm.sdk.6_32bit	32 ビット SDK  このフィーチャーまたは com.ibm.sdk.6_64bit を指 定する必要があります。
		com.ibm.sdk.6_64bit	64 ビット SDK  64 ビット・システムでの み選択可能です。  このフィーチャーまたは com.ibm.sdk.6_32bit を指 定する必要があります。
Installation Manager	com.ibm.cic.agent	agent_core	Installation Manager コ ア・コンテンツ
		agent_jre	Installation Manager JRE
DB2 for Linux (32 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP. linuxia32	N/A	DB2 は、システム OS お よびビット仕様に一致し ている必要があります。
DB2 for Linux (64 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP. linuxia64	N/A	DB2 は、システム OS お よびビット仕様に一致し ている必要があります。
DB2 for Windows (32 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP. winia32	N/A	DB2 は、システム OS お よびビット仕様に一致し ている必要があります。
DB2 for Windows (64 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP. winia64	N/A	DB2 は、システム OS お よびビット仕様に一致し ている必要があります。

- *location* は、製品がインストールされるディレクトリーへのパスです。
- *repository* は、ファイルが抽出されたリポジトリーへのパスで、以下のいずれかのディレクトリーで  
す。

*extract\_directory/repository/repos\_32bit*  
*extract\_directory/repository/repos\_64bit*

複数のリポジトリを指定する場合は、リポジトリの場所をコンマで区切ってください。

- `key=value` は、インストール環境に渡すキーと値のコンマで区切られたリストです。コンマとコンマの間にスペースを入れないでください。

表 4. テスト環境用のキー:

キー	説明
<code>user.select.64bit.image</code>	64 ビット・オペレーティング・システムにインストールする場合、以下の行を正確に追加します。  <code>user.select.64bit.image,,</code> <code>com.ibm.websphere.</code> <code>ND.v80=true</code>  デフォルト値は <code>false</code> です。
<code>user.db2.admin.username</code>	Windows のみ。DB2 データベースにアクセスする権限を持つユーザー名。デフォルト値は <code>bpmadmin</code> です。
<code>user.db2.admin.password</code>	Windows のみ。上記のユーザー名のパスワード。ご使用のシステム (Windows 2008 など) のパスワード・ポリシーに準拠したパスワードを選択してください。
<code>user.db2.port</code>	DB2 データベースのポート。デフォルト値は <code>50000</code> です。
<code>user.db2.instance.username</code>	Linux のみ。DB2 インスタンス・ユーザー名。
<code>user.db2.instance.password</code>	Linux のみ。上記のユーザー名のパスワード。
<code>user.db2.fenced.username</code>	Linux のみ。fenced ユーザー名。
<code>user.db2.fenced.password</code>	Linux のみ。上記のユーザー名のパスワード。
<code>user.db2.das.username</code>	Linux のみ。管理サーバー (DAS) ユーザー名。
<code>user.db2.das.password</code>	Linux のみ。上記のユーザー名のパスワード。

- `logName` は、メッセージおよび結果が記録されるログ・ファイルの名前です。

このコマンドを実行すると、デフォルトのフィーチャーを含めてテスト環境がインストールされます。特定のフィーチャーをインストールする場合、またはその他の変更を行う場合は、`imcl` のコマンド行引数に関する参照リンクを参照してください。

Installation Manager により、リストした製品がインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

製品のインストールが完了したら、**BPMconfig** コマンドを使用して、デプロイメント・テスト環境とプロファイルを作成します。

## 関連タスク:

22 ページの『BPMConfig を使用したテスト環境プロファイルの作成および構成』  
プロファイル設定に必要なすべての値が指定されたプロパティ・ファイルを **BPMConfig** コマンドで使用すると、IBM Process Server のテスト環境用のプロファイルを作成して構成することができます。

## 関連資料:

 IBM Integration Designer のシステム要件

 imcl のコマンド行引数

## 応答ファイルを使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール

IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・インストール・モードでインストールできます。サイレント・モードでインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。代わりに、製品をインストールする応答ファイルを使用するためのコマンドを実行します。

IBM Integration Designer をインストールする前に、製品のシステム要件を確認してください。

オペレーティング・システムおよびソフトウェアの前提条件レベルが特に重要です。インストール・プロセスでは前提条件オペレーティング・システム・パッチが自動的に検査されますが、まだ確認していない場合はシステム要件を確認してください。システム要件リンクには、すべてのサポートされているオペレーティング・システムと、対応したオペレーティング・システムにするためにインストールしなければならないオペレーティング・システムのフィックスおよびパッチがリストされています。さらに、すべての前提ソフトウェアの必要レベルも記載されています。

**重要:** 非管理ユーザーまたは非 root ユーザーとして IBM Integration Designer をそのテスト環境と一緒にインストールし、さらにテスト環境をインストールする場合は、製品のインストールを開始する前に DB2 をインストールする必要があります。DB2 データベースは、ローカルにインストールする必要があります。

IBM Integration Designer のインストールに必要な前提条件の基本製品がない場合、サイレント・インストールの一部としてそれをインストールする必要があります。必要な基本製品は以下のとおりです。

- Installation Manager
- WebSphere Application Server Network Deployment (テスト環境をインストールする場合)

サイレント・インストールでは、以下のタスクが実行されます。

- Installation Manager がまだインストールされていない場合はインストールし、既にインストールされている場合は適切なレベルに更新します。
- 必要な基本製品および IBM Integration Designer をインストールします。

IBM Integration Designer をサイレント・インストールするには、以下の手順を実行します。

1. インストールを行う前に、ライセンス条項を読み、同意します。 **-acceptLicense** をコマンド行に追加すると、すべてのライセンスに同意したことになります。
2. 必要な基本製品と IBM Integration Designer をインストールする応答ファイルを作成します。以下のいずれかのディレクトリーから、ご使用のオペレーティング・システムおよびユーザー・アクセス・レベルに適したサンプル応答ファイルをコピーします。

IBM Integration Designer とテスト環境の両方をインストールする場合: `extract_directory/responsefiles/iid_testenv/`

IBM Integration Designer のみをインストールする場合: `extract_directory/responsefiles/iid/`

あるいは、応答ファイルは Installation Manager でアクションを記録することによっても作成できます。応答ファイルを記録すると、Installation Manager で行った選択が XML ファイルに保管されます。Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、Installation Manager は XML 応答ファイル内のデータを使用してインストールを実行します。

3. サンプル応答ファイルに指定されたデフォルト値では基本インストールが実行されますが、ファイルとそのコメントを確認し、ご使用の環境の必要に応じてパラメーターを変更してください。

**重要:** 応答ファイル内のリポジトリ・ロケーションが環境内の正しい場所を指していることと、他のパラメーター値も適切であることを確認してください。

4. 次のコマンドを実行します。

**重要:** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 を実行している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択してコマンド・プロンプトを開始します。

IBM Integration Designer およびテスト環境をインストールするには、以下を実行します。 Windows

```
extract_directory\IM_win32\installc.exe -acceptLicense input
..%responsefiles%response_file_name.xml -log silent.log
```

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory\IM64\tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

> Linux

```
extract_directory/IM_linux/installc -acceptLicense input
../responsefiles/response_file_name.xml -log silent.log
```

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`extract_directory/IM64/tools` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

IBM Integration Designer のみをインストールする場合: Windows

```
extract_directory\IM_win32\installc -acceptLicense input
..%responsefiles%response_file_name.xml -log silent.log
```

> Linux

```
extract_directory/IM_linux/installc -acceptLicense input
../responsefiles/response_file_name.xml -log silent.log
```

Installation Manager により、必要なすべての前提条件および IBM Integration Designer がインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

**重要:** IBM Integration Designer および UTE を Linux プラットフォームの `/home` または `/opt` ディレクトリの下にインストールした場合は、DB2 Express のインストール中にエラーが発生したことを示す警告出力またはログ・メッセージを受け取る可能性があります。このエラー・メッセージは、「**DB2 Express のインストール中に警告が発生しました。詳しくは、DB2 Express インストール・ログ・ファイル `/opt/IBM/BPM8.0/logs/db2install.log` を参照してください。**」という内容です。これは、Linux プラットフォームの想定されている動作であり、インストールの失敗を示すものではありません。残りのインストール処理を続行して、完了してください。

製品のインストールが完了したら、**BPMconfig** コマンドを使用して、デプロイメント・テスト環境とプロファイルを作成します。

**関連タスク:**

 [Installation Manager](#) でのサイレント・インストール

 [Installation Manager](#) を使用した応答ファイルの記録

『BPMConfig を使用したテスト環境プロファイルの作成および構成』プロファイル設定に必要なすべての値が指定されたプロパティ・ファイルを **BPMConfig** コマンドで使用すると、IBM Process Server のテスト環境用のプロファイルを作成して構成することができます。

**関連資料:**

 [IBM Integration Designer](#) のシステム要件

## BPMConfig を使用したテスト環境プロファイルの作成および構成

プロファイル設定に必要なすべての値が指定されたプロパティ・ファイルを **BPMConfig** コマンドで使用すると、IBM Process Server のテスト環境用のプロファイルを作成して構成することができます。

コマンド行または応答ファイルを使用して、IBM Integration Designer とテスト環境のサイレント・インストールを実行しておく必要があります。

DB2 コマンド行環境を正常に呼び出せることを確認してください。

-  **Windows** 確認するには、コマンド・プロンプトから **db2cmd** を実行します。これにより、DB2 コマンド行インターフェースが開きます。
-  **Linux** 確認するには、端末から **db2** を実行します。これにより、DB2 コマンドの場所が特定されます。

非管理者ユーザーまたは非 root ユーザーである場合、データベースを作成するための許可が必要です。データベースを作成する権限がない場合、以下の手順を実行して権限を取得してください。

-  **Windows** ユーザーを **DB2ADMNS** グループに追加します。ユーザーをグループに追加する方法については、『**DB2ADMNS および DB2USERS ユーザー・グループへのユーザー ID の追加 (Windows)**』を参照してください。
-  **Linux** DB2 インスタンス・ユーザーのプライマリー・グループにユーザーを追加します。ユーザーをグループに追加する方法については、『**DB2 データベースのインストールのためのグループおよびユーザー ID の作成 (Linux および UNIX)**』を参照してください。

**-create -de** オプションを指定して **BPMConfig** コマンドを実行すると、以下のタスクが実行されます。

- IBM Process Server のテスト環境用のスタンドアロン・プロファイルを作成する。

- テスト環境プロファイルを構成する。

IBM Process Server のテスト環境プロファイルを作成して構成するには、以下の手順を実行します。

1. テスト環境プロファイルを作成するシステム上の以下のパスで、サンプル・プロパティー・ファイル `Advanced-PS-SingleCluster-DB2.properties` を探します。

> Linux `extract_directory/launchpad/content/samples/config/iid`

> Windows `extract_directory\launchpad\content\samples\config\iid`

2. 上記のサンプル・プロパティー・ファイルのコピーを作成します。
3. 使用するバージョンのプロパティー・ファイルを変更して、値が自分の構成に対応するようにします。  
IBM Integration Designer 用のテスト環境プロファイルを作成するには、必須プロパティーに割り当てられているデフォルトの変数値をクリアまたは更新します。

表 5. 設定する必要がある **BPMConfig** コマンドのプロパティー：

以下の表に、設定する必要があるプロパティーとその値を示します。

構成プロパティー	設定する値
bpm.de.psProcessCenterHostname bpm.de.psProcessCenterPort	Process Server のテスト環境は、オフラインのサーバー構成です。ホスト名とポート番号に対して指定されているデフォルト値の <code>@PS_PC_HOSTNAME@</code> と <code>@PS_PC_PORT@</code> をクリアします。
bpm.de.authenticationAlias.1.name=DeAdminAlias bpm.de.authenticationAlias.1.user bpm.de.authenticationAlias.1.password	テスト環境管理者用の認証別名のデフォルト値 <b>DeAdminAlias</b> は、そのままにしてください。ロールについて詳しくは、『IBM Business Process Manager セキュリティー・ロール』を参照してください。  <b>bpm.de.authenticationAlias.1.alias</b> の値をデフォルトの <code>DeAdminAlias</code> から変更する場合は、その別名 (例: <b>bpm.de.roleMapping#.alias</b> ) を参照しているすべての場所でその値を変更する必要があります。  テスト環境管理者の認証別名に対して、カスタムのユーザー名とパスワードを指定します。
bpm.de.authenticationAlias.2.name=ProcessCenterUserAlias bpm.de.authenticationAlias.2.user bpm.de.authenticationAlias.2.password	Process Server のテスト環境は、オフラインのサーバー構成です。 <b>ProcessCenterUserAlias</b> 認証別名のユーザー名とパスワードに対して指定されているデフォルト値をクリアします。
bpm.de.authenticationAlias.3.name=BPM_DB_ALIAS bpm.de.authenticationAlias.3.user bpm.de.authenticationAlias.3.password	データベース・インスタンス用の認証別名のデフォルト値 <b>BPM_DB_ALIAS</b> は、そのままにしてください。  データベース・ユーザーの認証別名に対して、カスタムのユーザー名とパスワードを指定します。
bpm.cell.authenticationAlias.1.name=CellAdminAlias bpm.cell.authenticationAlias.1.user bpm.cell.authenticationAlias.1.password	セル用の認証別名のデフォルト値 <b>CellAdminAlias</b> は、そのままにしてください。ロールについて詳しくは、『IBM Business Process Manager セキュリティー・ロール』を参照してください。  セル管理者の認証別名に対して、カスタムのユーザー名とパスワードを指定します。

表 5. 設定する必要がある **BPMConfig** コマンドのプロパティ (続き):

以下の表に、設定する必要があるプロパティとその値を示します。

構成プロパティ	設定する値
bpm.de.node.1.hostname bpm.de.node.1.installPath bpm.de.node.1.profileName	デフォルト値 <b>@INSTALL_HOSTNAME@</b> を更新して、製品がインストールされているコンピューターのホスト名を指定します。  デフォルト値 <b>@INSTALL_PATH@</b> を更新して、テスト環境のインストール・パスを指定します。  プロファイル名のデフォルト値 <b>@SERVER_PROFILE_NAME@</b> を <b>qbpmps</b> に更新します。
bpm.de.db.1.hostname bpm.de.db.1.portNumber bpm.de.db.1.schema	デフォルト値 <b>@DB_HOSTNAME@</b> を更新して、データベースのホスト名を指定します。  デフォルト値 <b>@DB_PORTNUMBER@</b> を更新して、DB2 サービスのポート番号を指定します。  デフォルト値 <b>@DB_SCHEMA@</b> を更新して、DB2 データベースのユーザー名を大文字で指定します。
bpm.de.db.1.databaseName bpm.de.db.2.databaseName bpm.de.db.3.databaseName	共通データベースのデフォルト値 <b>@CMN_DB_NAME@</b> を <b>QCMNDB</b> に更新します。  Process データベースのデフォルト値 <b>@PS_DB_NAME@</b> を <b>QBPMDB</b> に更新します。  Performance Data Warehouse データベースのデフォルト値 <b>@PDW_DB_NAME@</b> を <b>QPDWDB</b> に更新します。

**BPMConfig** コマンドのプロパティについては、サンプル・ファイルのコメントを読むか、『**BPMConfig** コマンドで使用するサンプル構成プロパティ・ファイル』に記載されているサンプル構成プロパティ・ファイルの説明を参照してください。

4. **bpm.de.createDatabase** プロパティをプロパティ・ファイルに追加し、その値を **true** に設定します。
5. 作成したプロパティ・ファイルの名前を **BPMConfig** コマンドに渡して、このコマンドを実行します。

以下に例を示します。

Linux

```
BPM_home/bin/BPMConfig -create -de my_environment.properties
```

Windows

```
BPM_home\bin\BPMConfig -create -de my_environment.properties
```

更新されたプロパティ・ファイルのコピーを作成し、このコピー・バージョンの名前を **Standalone.properties** に変更して **<WTE\_HOME>/properties/wte** に格納します。これにより、Integration Designer の機能において、「**サーバーの再設定**」機能が正しく動作するようになります。

テスト環境プロファイルを作成すると、**-start** アクションを指定して **BPMconfig** コマンドを実行することにより、テスト・プロファイルを開始できるようになります。

### 関連タスク:

20 ページの『応答ファイルを使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール』  
IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・インストール・モードでインストールできます。  
サイレント・モードでインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。代わりに、製品をインストールする応答ファイルを使用するためのコマンドを実行します。

14 ページの『IBM Integration Designer のサイレント・インストール』  
IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・インストール・モードでインストールできます。  
サイレント・モードでインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。

14 ページの『コマンド行を使用した IBM Integration Designer のサイレント・インストール』  
コマンド行を使用して、IBM Integration Designer をインストールできます。

---

## IBM Installation Manager の使用

このセクションでは、IBM Installation Manager に関連した一般的なタスクについて説明します。詳しくは、Installation Manager インフォメーション・センターを参照してください。

### 関連情報:



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## Installation Manager のインストール (Windows の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。(このプロセスについて詳しくは、7 ページの『製品ランチパッドからのインストール』を参照してください。) その他の場合は、Installation Manager のインストールを手動で開始する必要があります。

Installation Manager を手動でインストールするには、以下の手順に従います。

1. インストール・イメージ内の IM\_win32 フォルダーから、**install.exe** を実行します。

**注:** 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、IM\_win64 ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

2. 「パッケージのインストール」ページで「次へ」をクリックします。
3. 「ご使用条件」ページで使用条件を確認し、「使用条件の条項に同意します」を選択して条件に同意します。「次へ」をクリックします。
4. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページでは、必要に応じて「参照」ボタンをクリックし、インストール・ロケーションを変更します。「次へ」をクリックします。
5. 「要約」ページで「インストール」をクリックします。インストール・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが表示されます。
6. 「完了」をクリックします。IBM Installation Manager が開きます。

## Installation Manager のインストール (Linux の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、IBM Installation Manager がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。このプロセスについて詳しくは、7 ページの『製品ランチパッドからのインストール』を参照してください。

Installation Manager を手動でインストールするには、以下の手順に従います。

1. root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。

2. インストール・イメージ内の `IM_linux` フォルダから、**install** を実行します。

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の **Installation Manager** がまだインストールされていない場合は、`IM_linux64` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

3. 「パッケージのインストール」画面で「次へ」をクリックします。
4. 「ご使用条件」ページで使用条件を確認し、「使用条件の条項に同意します」を選択して条件に同意します。「次へ」をクリックします。
5. 必要な場合は、インストール・ディレクトリーのロケーションを編集します。「次へ」をクリックします。
6. 情報の要約ページで「インストール」をクリックします。インストール・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが表示されます。
7. 「終了」をクリックします。ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、**IBM Installation Manager** がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。

## Installation Manager の開始 (Windows の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、**IBM Installation Manager** がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。この自動インストールでは、**Installation Manager** は、リポジトリー設定が構成され、**IBM Integration Designer** パッケージが選択された状態で開始します。**Installation Manager** を直接開始する場合は、リポジトリー設定と製品パッケージの選択を手動で行う必要があります。詳しくは、30 ページの『**Installation Manager** でのリポジトリー設定』を参照してください。

**Installation Manager** を手動で開始するには、以下の手順に従います。

1. タスクバーから「スタート」メニューを開きます。
2. 「すべてのプログラム」 > 「**IBM Installation Manager**」 > 「**IBM Installation Manager**」を選択します。

## Installation Manager の開始 (Linux の場合)

ランチパッド・プログラムから製品のインストールを開始すると、**IBM Installation Manager** がワークステーションにインストールされていない場合は、インストールが自動的に実行されます。この自動インストールでは、**Installation Manager** は、リポジトリー設定が構成され、**IBM Integration Designer** パッケージが選択された状態で開始します。**Installation Manager** を直接開始する場合は、リポジトリー設定と製品パッケージの選択を手動で行う必要があります。詳しくは、30 ページの『**Installation Manager** でのリポジトリー設定』を参照してください。

**Installation Manager** を手動で開始するには、以下の手順に従います。

1. root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。
2. **Installation Manager** のインストール・ディレクトリー (デフォルトでは、root ユーザーの場合は `/opt/IBM/InstallationManager/eclipse`、非 root ユーザーの場合は `user_home/IBM/InstallationManager/eclipse`) に移動し、**IBMIM** を実行します。

## Installation Manager のアンインストール (Windows の場合)

**Installation Manager** を手動でアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロール・パネル」をクリックし、「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。

2. IBM Installation Manager のエントリーを選択し、「削除」をクリックします。

## Installation Manager のアンインストール (Linux の場合)

IBM Installation Manager は、使用している Linux バージョンに付属のパッケージ管理ツールを使用してアンインストールする必要があります。

Linux で Installation Manager を手動でアンインストールするには、以下のいずれかの方法を使用します。

- メニューで、「アプリケーション」 > 「システム・ツール (System Tools)」をクリックします。「IBM Installation Manager」 > 「IBM Installation Manager のアンインストール (Uninstall IBM Installation Manager)」を選択します。
- root ユーザー特権でターミナル・ウィンドウを開きます。アンインストールする Installation Manager のディレクトリーに移動します。デフォルトでは、このディレクトリーは `/var/ibm/InstallationManager/uninstall` です。`./uninstall` を実行します。

## プロキシ・サーバーを介した Installation Manager の更新

プロキシ・サーバーは、ファイアウォールの後ろからリモート・サーバーに接続できるようにします。プロキシ・サーバーの設定は、Installation Manager または応答ファイルで行うことができます。プロキシ・サーバーを有効にすると、プロキシ・サーバーはすべてのサーバー通信で使用されます。Installation Manager をプロキシ・サーバー用に構成する方法については、Installation Manager インフォメーション・センターの『インターネットの設定』を参照してください。

## 概説

IBM Installation Manager は、ワークステーション上での IBM Integration Designer パッケージのインストールを支援するプログラムです。また、インストールしたさまざまなパッケージの更新、変更、およびアンインストールも支援します。パッケージとは、Installation Manager によってインストールされる設計になっている製品、コンポーネントのグループ、または単一のコンポーネントです。

IBM Installation Manager には、いくつかの時間節約のための機能があります。ユーザーが何をインストールしようとしているか、既にインストール済みのソフトウェア・コンポーネント、およびユーザーに代わって自動的にインストール可能なコンポーネントを追跡します。また、ユーザーが確実に最新バージョンの IBM Integration Designer 製品パッケージをインストールするように、更新を検索します。また、Installation Manager は、インストールする製品パッケージのライセンス管理用のツールを備えています。パッケージの更新と変更のためのツールもあります。また、Installation Manager を使用して、製品パッケージをアンインストールすることもできます。

Installation Manager には、各製品パッケージをそれぞれのライフ・サイクルを通して容易に保守できるようにする次の 7 つのウィザードがあります。

- 「パッケージのインストール」ウィザードでは、インストール・プロセスを手順を追って説明します。デフォルト値をそのまま受け入れて製品パッケージをインストールすることができます。あるいは、デフォルトの設定に変更を加えて、カスタム・インストールを作成することもできます。製品パッケージをインストールする前に、ウィザード全体を通してユーザーが選択した項目すべての要約が表示されます。このウィザードでは、一度に 1 つ以上の製品パッケージをインストールすることができます。
- 「パッケージの更新」ウィザードは、インストール済みの製品パッケージに対する使用可能な更新を検索します。更新には、製品のリリースされたフィックス、新しいフィーチャー、新バージョンなどがあります。このウィザードでは、更新の内容の詳細が提供されます。更新を適用するかどうか選択することができます。

- 「**パッケージの変更**」ウィザードでは、インストール済みのパッケージの特定の要素を変更することができます。製品パッケージの最初のインストール時には、インストールするフィーチャーを選択します。ほかのフィーチャーが必要であることが後で分かった場合、「パッケージの変更」ウィザードを使用して、製品パッケージのインストール済み環境にそのフィーチャーを追加することができます。また、フィーチャーの除去、および言語の追加または除去も可能です。
- 「**ライセンスの管理**」ウィザードは、使用するパッケージ用のライセンスのセットアップを支援します。お試し版ライセンスをフル・ライセンスに変更する場合、サーバーをフローティング・ライセンス用にセットアップする場合、および各パッケージで使用するライセンスのタイプを選択する場合にこのウィザードを使用します。このウィザードは IBM Integration Designer パッケージでは使用されません。
- 「**インポート**」ウィザードは、Installation Manager 以外のインストール・ツールを使用してインストールされた既存のパッケージを追加して、Installation Manager で管理できるようにするのに役立ちます。
- 「**パッケージのロールバック**」ウィザードでは、以前にインストールしたバージョンの適格パッケージに戻すことができます。
- 「**パッケージのアンインストール**」ウィザードは、コンピューターから製品パッケージを除去するときに役立ちます。複数のパッケージを一度にアンインストールすることができます。

#### 関連情報:

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

## サイレント・モードでの Installation Manager のインストールとアンインストール

IBM Installation Manager をサイレント・モードでインストールおよびアンインストールすることができます。

#### 関連情報:

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

### Installation Manager のサイレント・インストール

Installation Manager のサイレント・インストールを実行するには、インストーラーを解凍し、`InstallerImage_platform` サブディレクトリーに移動して、以下のコマンドを実行します。

- **Windows** `extract_directory¥IM_win32¥installc --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log <log file path and name>。例: extract_directory¥IM_win32¥installc --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log c:¥mylogfile.xml`

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`IM_win64` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

- **Linux** `extract_directory/IM_win32/install --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log <log file path and name>。例: extract_directory/IM_win32/install --launcher.ini -acceptLicense silent-install.ini -log /root/mylogs/mylogfile.xml`

注: 64 ビットのシステム上で作業中で、32 ビット版の Installation Manager がまだインストールされていない場合は、`IM_linux64` ディレクトリーからコマンドを実行する必要があります。

インストール後、Installation Manager または Installation Manager のインストーラーを使用して、パッケージのサイレント・インストールを行うことができます。

## Installation Manager のサイレント・アンインストール (Windows の場合)

Windows で Installation Manager のサイレント・アンインストールを行うには、以下の手順に従います。

1. コマンド行で、Installation Manager のアンインストール・ディレクトリーに移動します。デフォルトでは、これは **C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\IBM\Installation Manager\uninstall** です。
2. 次のコマンドを入力します。 `uninstallc.exe --launcher.ini silent-uninstall.ini`

## Installation Manager のサイレント・アンインストール (Linux の場合)

その他プラットフォームで Installation Manager のサイレント・アンインストールを行うには、以下の手順に従います。

1. ターミナル・ウィンドウで、アンインストールする Installation Manager のディレクトリーに移動します。デフォルトでは、これは `/var/ibm/InstallationManager/uninstall` です。
2. 次のコマンドを実行します。 `uninstall --launcher.ini silent-uninstall.ini`

## パッケージ・グループおよび共有リソース・ディレクトリー

IBM Installation Manager を使用して IBM Integration Designer パッケージをインストールする場合は、共有リソース・ディレクトリー (Installation Manager を使用して最初にインストールする製品が IBM Integration Designer である場合) およびパッケージ・グループを選択する必要があります。

### パッケージ・グループ

インストール・プロセス中に、IBM Integration Designer パッケージのパッケージ・グループを指定する必要があります。パッケージ・グループとは、各パッケージが同じグループに属するほかのパッケージと共通のユーザー・インターフェースまたはワークベンチを共用するためのディレクトリーです。Installation Manager を使用して IBM Integration Designer パッケージをインストールするときには、新しいパッケージ・グループを作成することも、パッケージを既存のパッケージ・グループにインストールすることもできます。一部に、パッケージ・グループを共用できないパッケージがあります。この場合は、既存のパッケージ・グループを使用するオプションが使用不可になります。

複数のパッケージを一度にインストールする場合は、すべてのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールされることに注意してください。

パッケージ・グループには自動的に名前が設定されますが、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは選択できます。

IBM パッケージ化ユーティリティを使用して次を行うことができます。

- パッケージ用の新規リポジトリーの生成
- 新規リポジトリーへのパッケージのコピー
- 必要なくなったパッケージの削除

詳細については、『IBM Packaging Utility』を参照してください。

製品パッケージを正常にインストールしてパッケージ・グループを作成した後は、インストール・ディレクトリーを変更できません。インストール・ディレクトリーには、そのパッケージ・グループにインストールされた IBM Integration Designer パッケージに固有のファイルとリソースが格納されます。ほかのパッケージ・グループが使用する可能性がある、製品パッケージ内の Eclipse プラグインは、共有リソース・ディレクトリー内に格納されます。

## 共有リソース・ディレクトリー

共有リソース・ディレクトリー は、1 つ以上の製品パッケージ・グループで使用できるように Eclipse プラグインを格納するディレクトリーです。

**重要:** 共有リソース・ディレクトリーは、パッケージを最初にインストールするときに、一度指定することができます。共有リソース・ディレクトリーには、最大容量のドライブを使用することをお勧めします。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、このディレクトリーの場所は変更できません。

関連情報:

 IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## Installation Manager でのリポジトリー設定

Installation Manager を直接開始する場合 (例えば、Web サーバー上にあるリポジトリーから開始する場合は、Installation Manager の製品パッケージが格納されているディレクトリーの URL を指定する必要があります。指定しないと、製品パッケージをインストールできません。

デフォルトでは、Installation Manager は各ソフトウェア開発製品の組み込み URL を使用してインターネット経由でリポジトリー・サーバーに接続し、インストール可能なパッケージおよび新規フィーチャーを検索します。組織では、イントラネット・サイトを使用するためにリポジトリーをリダイレクトすることが必要な場合があります。

**注:** DVD またはローカル・インストール・イメージ以外からインストールする場合、インストール・プロセスを開始する前に、管理者からインストール・パッケージのリポジトリー URL を入手してください。

Installation Manager でリポジトリーのロケーションを追加、編集、または削除するには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager を始動します。
2. Installation Manager の「開始」ページで、「ファイル」 > 「設定」をクリックし、次に「リポジトリー」をクリックします。「リポジトリー」ページが開き、使用可能なリポジトリー、各リポジトリーのロケーション、および各リポジトリーがアクセス可能かどうかが表示されます。
3. 「リポジトリー」ページで、「リポジトリーの追加」をクリックします。
4. 「リポジトリーの追加」ウィンドウで、リポジトリー・ロケーションの URL を入力するか、URL を参照してファイル・パスを設定します。一般に、リポジトリー・ロケーションは `image_directory/repository.config` です。ここで、`image_directory` には、インストールする製品の解凍済みインストール・イメージが入ります。
5. 「OK」をクリックします。新規の、または変更されたリポジトリー・ロケーションが表示されます。リポジトリーにアクセスできない場合は、赤い x 印が「アクセス可能 (Accessible)」列に表示されません。
6. 「OK」をクリックして終了します。

**注:** Installation Manager がインストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリー・ロケーションを検索するようにしたい場合は、「リポジトリー」設定ページで「インストール中および更新中にサービス・リポジトリーの検索」設定を必ず選択してください。

## 関連情報:

 IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## IBM Integration Designer の始動

IBM Integration Designer は、デスクトップ環境またはコマンド行インターフェースから開始できます。

- デスクトップ環境から IBM Integration Designer を開始するには、以下を実行します。

- **Windows** 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > パッケージ・グループ名 > 「IBM Integration Designer 8.0」をクリックします。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「IBM Integration Designer 8.0」をクリックします。

- **Linux** 「パッケージ・グループ名」 > 「IBM Integration Designer 8.0」をクリックすると表示されるメインメニューで、製品のショートカットを選択します。例えば、「IBM Integration Designer > IBM Integration Designer8.0」をクリックします。

- コマンド行から IBM Integration Designer を開始するには、以下を実行します。

- **Windows** パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーから **wid.exe** コマンドを実行します。デフォルトでは、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは以下のとおりです。

`C:\¥IBM¥IntegrationDesigner¥v8.0`

注: Windows の日時が正しく設定されていること、および BIOS の設定値と一致していることを確認してください。日時が正しく設定されていない場合、IBM Integration Designer は起動に失敗して次のエラー・メッセージが表示されます。

```
Exception in org.eclipse.equinox.internal.p2.reconciler.dropins.Activator.start()
of bundle org.eclipse.equinox.p2.reconciler.dropins
```

- **Linux** パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーから **./wid.bin** コマンドを実行します。デフォルトでは、パッケージ・グループのインストール・ディレクトリーは以下のとおりです。

`/opt/IBM/IntegrationDesigner/v8.0` (管理ユーザーとしてインストールした場合)

`user_home/IBM/IntegrationDesigner/v8.0` (管理者以外のユーザーとしてインストールした場合)

Process Center と連動するように IBM Integration Designerをインストールするときに Process Center がまだインストールされていない場合は、接続を求めるプロンプトのウィンドウを取り消します。それ以外の場合は、次の形式で Process Center の URI を入力します。

`http://server_name:port number/ProcessCenter`

例:

`http://myserver.toronto.com:9080/ProcessCenter`

ユーザー ID とパスワードを入力します。「接続」をクリックします。

## IBM Integration Designer 始動時の "-clean" オプションの使用

**-clean** オプションを IBM Integration Designer の始動時に使用することができます。このオプションはいくつかの機能を実行します。

IBM Integration Designer は、より高速なロードのためにすべての `plugin.xml` ファイルを単一リポジトリにキャッシュする、Eclipse プラットフォームに基づいています。新しいプラグインをインストールする前に IBM Integration Designer を使用した場合は、一度 **-clean** オプションを指定して IBM Integration Designer を始動する必要があります。

1. コマンド行で、IBM Integration Designer をインストールしたパッケージ・グループのインストール・ディレクトリに移動します。
2. **-clean** オプションを指定して、IBM Integration Designer を始動するコマンドを実行します。

 **wid.exe -clean**

 **./wid.bin -clean**

この **-clean** オプションは、IBM Integration Designer に Eclipse リポジトリの再作成を強制します。これは、`plugins` フォルダに解凍することで Eclipse にインストールされるものすべてに適用されます。このオプションはまた、以下を行います。

- マニフェスト・ファイルを除去して再生成します。
- 新たに作成されたマニフェスト・ファイルからキャッシュされたバイナリを除去して再生成します。
- JXE 情報を除去して再生成します。
- ランタイム・プラグイン・レジストリーを除去して再生成します。

さらに、**-clean** が使用されたときに何が行われるかは、構成ディレクトリにリストされた各プラグインに応じて異なります。

暫定修正を適用後、**-clean** オプションを使用して IBM Integration Designer を始動するのは、良い方法です。これにより、適用された修正の変更内容を反映してプラグイン・レジストリーが再生成されます。**-clean** を指定した実行はプラグイン・レジストリーの再生成でかなりの時間を要するため、これは暫定修正の適用後に一度だけ行う必要があります。

---

## Citrix プレゼンテーション・サーバーへのインストール

Citrix プレゼンテーション・サーバーに IBM Integration Designer をインストールして実行できます。このようにすると、複数のユーザーが Citrix プレゼンテーション・サーバー・クライアントからリモート接続できます。

IBM Integration Designer を Citrix プレゼンテーション・サーバーにインストールして実行するには、次の指示に従います。

**注:** この説明全体にわたり、「インストール・ユーザー」と「製品インストール・ユーザー」という用語は、IBM Integration Designer をインストールしたユーザー ID のことを指しています。

1. サーバーに IBM Integration Designer をインストールする場合、管理者権限のあるユーザーとしてログインする必要があります。
2. インストール後、インストール・ディレクトリが読み取り専用になっていることを確認します。これは、共有インストール・ディレクトリではなく、製品ディレクトリです。このステップにより、構成情報がホーム・ディレクトリに必ず書き込まれるようになります。この措置を行わないと、すべてのユーザーは構成領域として同じ場所を使用することになります。これはサポートされていません。

**注:** クライアント・ユーザーが `<installation_root>\%runtimes%\bi_v8\` ディレクトリの書き込み権限を持っていることを確認します。書き込み権限がない場合、統合テスト環境用サーバーの状況は検出できません。

3. クライアントから IBM Integration Designer を起動すると、ユーザーが指定したディレクトリー内にワークスペースが作成されます。
4. テスト環境でサーバーを使用するには、root 以外の各ユーザーに対してプロファイルが必要です。製品インストール・ユーザーは、該当する IBM Business Process Manager のファイルとディレクトリーへの書き込み権限を他の非 root ユーザーに付与することができます。この権限付与を行うと、非 root ユーザーがプロファイルを作成できるようになります。また、製品インストール・ユーザーは、プロファイルを作成する権限のあるユーザーのグループを作成したり、プロファイルを作成する権限を個々のユーザーに与えたりすることができます。プロファイルを作成する権限のあるグループを作成する方法を、次のタスク例に示します。

## Citrix プレゼンテーション・サーバーの構成

インストール・ユーザーは、次のステップを実行することで、「profilers」グループを作成し、プロファイルを作成するための適切な権限をそのグループに与えることができます。

1. IBM Integration Designer システムに、製品インストール・ユーザー (製品インストール・ユーザーには、root/管理者ユーザーまたは root 以外のユーザーになることが可能) としてログオンします。
2. オペレーティング・システムのコマンドを使用して、以下のタスク実行します。
  - a. プロファイルを作成できるすべてのユーザーを所属させる、「profilers」という名前のグループを作成します。
  - b. プロファイルを作成できる、**user1** という名前のユーザーを作成します。
  - c. ユーザーの **product\_installer** および **user1** を **profilers** グループに追加します。
3.   ログオフし、インストール・ユーザーとして再度ログオンし、新しいグループを作成します。
4. 製品インストール・ユーザーとして、オペレーティング・システムのツールを使用してディレクトリーおよびファイルの権限を変更します。
  - a.   次の例では、変数 \$WASHOME を、IBM Business Process Manager のルート・インストール・ディレクトリーである **root\_installation\_directoryopt/ibm/BPM/v8** と仮定します。

```
export WASHOME=opt/ibm/BPM/v8
echo $WASHOME
echo "Performing chgrp/chmod per WAS directions..."
chgrp profilers $WASHOME/logs/manageprofiles
chmod g+wr $WASHOME/logs/manageprofiles
chgrp profilers $WASHOME/properties
chmod g+wr $WASHOME/properties
chgrp profilers $WASHOME/properties/fsdb
chmod g+wr $WASHOME/properties/fsdb
chgrp profilers $WASHOME/properties/profileRegistry.xml
chmod g+wr $WASHOME/properties/profileRegistry.xml
chgrp -R profilers $WASHOME/profileTemplates
```

- b.  次の追加コマンドを実行します。profile\_template\_name はデフォルト、dmgr、または managed です。

```
chmod -R g+wr $WASHOME/profileTemplates/profile_template_name/documents
```

プロファイル作成時にファイルがプロファイル・ディレクトリーにコピーされても、それらのファイルの所有権は保持されます。プロファイル・ディレクトリーへの書き込み権限を与えたのは、プロファイル・ディレクトリーにコピーされたファイルを、プロファイル作成プロセスの一部として変更できるようにするためです。プロファイル作成の開始前から profileTemplate ディレクトリー構造内に存在しているファイルは、プロファイル作成時には変更されません。

- c.  次の追加コマンドを実行します。

```
chgrp profilers $WASHOME/properties/Profiles.menu  
chmod g+wr $WASHOME/properties/Profiles.menu
```

- d.  次の例では、変数 `$WASHOME` を、IBM Business Process Manager のルート・インストール・ディレクトリーである `C:\IBM\ProcServer\8` と仮定します。Windows の文書の指示に従い、次のディレクトリーおよびファイルの読み取り権限および書き込み権限を `profilers` グループに与えます。

```
@WASHOME\logs\manageprofiles  
@WASHOME\properties  
@WASHOME\properties\fsdb  
@WASHOME\properties\profileRegistry.xml
```

非管理ユーザーで許可エラーが発生した場合は、追加ファイルの許可を変更しなければならないことがあります。例えば、製品インストール・ユーザーが非管理ユーザーにプロファイルの削除権限を与える場合、製品インストール・ユーザーは、以下のファイルを削除しなければならないことがあります。

- e.  

```
install_root/properties/profileRegistry.xml_LOCK
```

- f. 

```
install_root\properties\profileRegistry.xml_LOCK
```

このファイルを削除する権限を非 root ユーザーに付与するには、そのユーザーにこのファイルへの書き込み権限を付与します。それでも非 root ユーザーがこのプロファイルを削除できない場合は、製品インストール・ユーザーがこのプロファイルを削除することができます。

インストール・ユーザーは、`profilers` グループを作成し、特定のディレクトリーおよびファイルの適切な権限をそのグループに与え、プロファイルを作成できるようにしました。非 root ユーザーがプロファイルの作成のために書き込む必要がある、IBM Integration Designer のインストール・ルートに存在するディレクトリーとファイルはこれらだけです。

---

## インストール済み環境の変更

IBM Installation Manager の「パッケージの変更」ウィザードを使用すると、インストール済み製品パッケージの言語やフィーチャーの選択項目を変更できます。

**注:** 変更を行う前に、Installation Manager を使用してインストールしたすべてのプログラムを閉じます。

インストール済み製品パッケージを変更するには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager の「開始」ページで、「変更」をクリックします。
2. 「パッケージの変更」ウィザードで、IBM Integration Designer 製品パッケージを選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「変更」ページの「言語」で、パッケージ・グループの言語を選択し、「次へ」をクリックします。パッケージのユーザー・インターフェースおよび資料が、対応する各国語の翻訳でインストールされます。選択した言語は、このパッケージ・グループにインストールするすべてのパッケージに適用されます。
4. 「フィーチャー」ページで、インストールするパッケージ・フィーチャーを選択し、除去するフィーチャーをクリアします。

- a. フィーチャーについて詳しくは、フィーチャーをクリックし、「詳細」の要旨を参照してください。
  - b. フィーチャー間の依存関係を表示するには、「**依存関係の表示**」を選択します。フィーチャーをクリックすると、そのフィーチャーに依存しているフィーチャーおよび従属しているフィーチャーが、「依存関係」ウィンドウに表示されます。パッケージ内のフィーチャーを選択または除外すると、Installation Manager によって自動的に他のフィーチャーとの依存関係が適用され、更新されたダウンロード・サイズとインストールのディスク・スペース要件が表示されます。
5. フィーチャーの選択が終了したら、「次へ」をクリックします。
  6. 「要約」ページでは、インストール・パッケージを変更する前に選択項目を確認し、「変更」をクリックします。
  7. オプション: 変更プロセスが完了したら、「ログ・ファイルの表示」をクリックして完全なログを表示します。

---

## IBM Integration Designer のアップグレード

IBM Integration Designer に対するアップグレードが使用可能な場合、そのアップグレードをインストールすることができます。

V8.5 から V8.5.0.1 へのマイグレーションについては、IBM Business Process Manager バージョン 8.5.0 フィックスパック 1 (V8.5.0.1) のプロファイル・アップグレード手順を参照してください。

IBM サポートの Web サイトにアクセスして、使用可能なフィックスパックおよび暫定修正がないか確認します。

### フィックスパックの対話式インストール

IBM Integration Designer のフィックスパックを対話式にインストールできます。

デフォルトでは、リポジトリ設定がローカル更新サイトをポイントしている場合を除いて、インターネットにアクセスする必要があります。

インストール済みのパッケージごとに、デフォルトの IBM 更新リポジトリのロケーションが組み込まれています。Installation Manager で、インストール済みパッケージの IBM 更新リポジトリ・ロケーションを検索するには、「リポジトリ」設定ページにある「**インストールおよび更新時にサービス・リポジトリを検索 (Search service repositories during installation and updates)**」設定が選択されている必要があります。この設定はデフォルトで選択されています。

更新処理時には、パッケージの基本バージョンのリポジトリが必須です。Installation Manager でロールバックに必要なファイルを削除した場合は、フィックスパックにアップグレードしたときに、Installation Manager が元のインストール・ディスクを要求するプロンプトを出します。DVD またはその他のメディアから製品をインストールした場合は、更新機能を使用する際にそれらのメディアが使用可能になっている必要があります。

詳しくは、Installation Manager インフォメーション・センターを参照してください。

**重要:** 以前のバージョンで作成したプロファイルは保持されるため、再作成する必要はありません。

この手順を使用して、基盤となる IBM DB2 Express または IBM Cognos® BI に更新をインストールすることはできません。これらの製品は、通常の更新処理に従って更新する必要があります。

製品パッケージの更新を検索してインストールするには、以下の手順に従います。

1. 更新を行う前に、Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じてください。
2. Installation Manager を開始します。Installation Manager の「開始」ページで、「更新」をクリックします。

▶ Windows 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > パッケージ・グループ名 > 「更新」をクリックすることもできます。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「更新」をクリックします。
3. IBM Installation Manager がシステム上に検出されない場合、または古いバージョンがインストールされている場合は、最新リリースのインストールに進む必要があります。ウィザードに表示される指示に従って、IBM Installation Manager のインストールを完了してください。
4. インターネットにアクセスできない場合は、暫定修正またはフィックスパックをローカルにダウンロードし、固有のディレクトリーに解凍して、その新しいディレクトリーを Installation Manager に追加します。
  - a. Installation Manager を始動します。
  - b. 「開始」ページから、「ファイル」 > 「設定」 > 「リポジトリー」をクリックします。
  - c. 「リポジトリー」ページで、「リポジトリーの追加」をクリックします。
  - d. 「リポジトリーの追加 (Add Repository)」ウィンドウで、暫定修正ファイルまたはフィックスパック・ファイル用に作成した新規ディレクトリーを参照します。
  - e. repository.config ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
  - f. 「リポジトリー」ページで、「OK」をクリックします。
5. 「パッケージの更新」ウィザードで、更新する製品パッケージが含まれているパッケージ・グループを選択するか、「すべてを更新」チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックします。Installation Manager は、そのリポジトリーおよび更新するソフトウェアの定義済み更新サイトで更新を検索します。検索の進行状況が進行標識で示されます。
6. パッケージの更新が検出されると、「パッケージの更新 (Update Packages)」ページの「更新」リスト内の対応するパッケージの下に、更新が表示されます。デフォルトでは、推奨される最新の更新のみが表示されます。使用可能なパッケージについて検出されたすべての更新を表示するには、「すべて表示」をクリックします。
  - a. 更新の詳細を確認するには、その更新をクリックし、「詳細」の下に表示される説明を参照します。
  - b. 更新に関する追加情報がある場合は、説明テキストの最後に「詳細情報」リンクが含まれています。このリンクをクリックして、ブラウザーで情報を表示します。更新をインストールする前に、この情報を検討してください。
7. インストールする更新を選択するか、デフォルトの選択を復元するために「推奨を選択」をクリックし、「次へ」をクリックします。依存関係にある更新は、自動的に一緒に選択または一緒にクリアされます。
8. 「ライセンス」ページで、選択した更新のご使用条件を読みます。「ライセンス」ページの左側に、選択した更新に関するライセンスのリストが表示されます。それぞれの項目をクリックして、ご使用条件のテキストを表示します。ご使用条件にすべて同意する場合は、「使用条件の条項に同意します」をクリックします。その後、「次へ」をクリックします。
9. 更新をインストールする前に、「要約」ページで、行った選択を検討します。
  - a. これまでのページで行った選択を変更するには、「戻る」をクリックして、変更を行います。
  - b. 問題のない状態になったら、「更新」をクリックし、更新をダウンロードしてインストールします。インストールの完了のパーセンテージが進行標識で示されます。

10. オプション: アップグレード・プロセスが完了すると、プロセス正常終了の確認メッセージが、ページの上部に表示されます。「**ログ・ファイルの表示**」をクリックして、現行セッションのログ・ファイルを新しいウィンドウに表示します。続行するにはインストール・ログのウィンドウを閉じる必要があります。
11. 「終了」をクリックして、ウィザードを閉じます。
12. Installation Manager を閉じます。

#### 関連情報:

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

## フィックスパックのロールバック

「パッケージのロールバック (Roll back packages)」ウィザードを使用すると、フィックスパックを削除して、前のバージョンに戻すことができます。

ロールバック・プロセス中は、Installation Manager から前バージョンのパッケージのファイルにアクセスする必要があります。デフォルトでは、これらのファイルはパッケージをインストールしたときにシステムに格納されています。ワークステーション上にファイルがない場合は、Installation Manager の設定で (「**ファイル**」 > 「**設定**」 > 「**リポジトリ**」)、前バージョンの製品をインストールしたときのインストール元リポジトリ・ロケーションを指定する必要があります。DVD やその他のメディアから製品をインストールした場合は、ロールバック・フィーチャーの使用時にその DVD またはメディアが使用可能でなければなりません。

製品パッケージに更新を適用した後で、更新を削除して製品を前のバージョンに戻す場合は、ロールバック・フィーチャーを使用します。ロールバック・フィーチャーを使用すると、Installation Manager によって、更新されたリソースがアンインストールされ、前バージョンのリソースが再インストールされます。

**注:** スタンドアロン・サーバーに対してロールバック・プロセスを実行すると、WebSphere テスト環境が使用不可になる可能性があります。ロールバック・プロセスの完了後に、テスト環境プロファイルのリセットする必要があります。テスト環境プロファイルのリセット方法については、『デフォルトのサーバー・プロファイルの作成またはリセット』を参照してください。

ロールバック・ウィザードの使用について詳しくは、Installation Manager のヘルプを参照してください。

更新したパッケージをロールバックするには、以下の手順に従います。

1. Installation Manager の「開始」ページで、「**ロールバック**」をクリックして、ロールバック・ウィザードを開始します。
2. 「**パッケージのロールバック**」リストから、ロールバックするパッケージを選択します。
3. 画面の指示に従ってウィザードの手順を完了します。

#### 関連情報:

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

## フィックスパックのサイレント・インストール

コマンド行を使用して、IBM Integration Designer のフィックスパックをインストールできます。

この手順を使用して、基盤となる IBM DB2 Express または IBM Cognos BI に更新をインストールすることはできません。これらの製品は、通常の更新処理に従って更新する必要があります。

IBM Integration Designer をサイレントに更新するには、以下の手順を実行します。

1. 更新の前にライセンス条項を読み、承諾します。**-acceptLicense** をコマンド行に追加すると、すべてのライセンスに同意したことになります。
2. 次のコマンドを実行します。

**重要:** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 を実行している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択してコマンド・プロンプトを開始します。

> Windows

```
extract_directory%disk1%IM_win32%tools%imcl install
com.ibm.websphere.integration.developer.v80 -acceptLicense -installationDirectory
location -repositories repository
-showVerboseProgress -log logName.log
```

> Linux

```
extract_directory/disk1/IM_linux/tools/imcl install
com.ibm.websphere.integration.developer.v80 -acceptLicense -installationDirectory
location -repositories repository -showVerboseProgress
-log logName.log
```

ここで、

- *location* は、製品が更新されるディレクトリーへのパスです。
  - *repository* は、フィックスバック・ファイルが抽出されたリポジトリーへのパスです。複数のリポジトリーを指定する場合は、リポジトリーの場所をコンマで区切ってください。
  - *logName* は、メッセージおよび結果が記録されるログ・ファイルの名前です。
3. テスト環境も更新する場合、正しいインストール・ディレクトリーと、必要な製品 ID を指定して、同じコマンドを再度実行します。

> Windows

```
extract_directory%disk1%IM_win32%tools%imcl install list_of_product_IDs
-acceptLicense -testInstallationDirectory location -repositories
repository -showVerboseProgress -log logName.log
```

> Linux

```
extract_directory/disk1/IM_linux/tools/imcl install list_of_product_IDs
-acceptLicense -testInstallationDirectory location -repositories repository
-showVerboseProgress -log logName.log
```

ここで、

- *list\_of\_product\_IDs* は、更新する製品の ID をスペースで区切ったリストです。

表 6. テスト環境用の製品 ID

製品	製品 ID
IBM BPM Advanced: Process Server	com.ibm.bpm.PS.V80
IBM Business Monitor	com.ibm.websphere. MON.V80
WebSphere Application Server Network Deployment	com.ibm.websphere.ND.v80

- *location* は、製品が更新されるディレクトリーへのパスです。

- *repository* は、フィックスパック・ファイルが抽出されたりポジトリへのパスです。複数のリポジトリを指定する場合は、リポジトリの場所をコンマで区切ってください。
- *logName* は、メッセージおよび結果が記録されるログ・ファイルの名前です。

Installation Manager により、リストした製品が更新され、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

以下の例では、IBM Integration Designer が Windows で更新されます。

```
imcl install com.ibm.websphere.integration.developer.v80 -acceptLicense
-installationDirectory C:\IBM\IntegrationDesigner\8.0 -repositories
D:\temp\IID\Fixpack1 -showVerboseProgress -log update.log
```

関連資料:



imcl のコマンド行引数

関連情報:



IBM Installation Manager インフォメーション・センター

---

## IBM Integration Designer のアンインストール

IBM Integration Designer を対話式アンインストールまたはサイレント・アンインストールすることができます。

### IBM Integration Designer のアンインストール

Installation Manager の「アンインストール」オプションを使用すると、単一のインストール・ロケーションからパッケージをアンインストールすることができます。すべてのインストール・ロケーションから、すべてのインストール済みパッケージをアンインストールすることもできます。

パッケージをアンインストールするには、製品パッケージのインストールに使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。別のパッケージが依存しているパッケージは、その依存パッケージでもアンインストールが選択されている場合のみアンインストールできます。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. 稼働中のサーバーをすべて停止します。
3. Installation Manager の「開始」ページで、「更新」をクリックします。  「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「パッケージ・グループ名」 > 「アンインストール」をクリックします。例えば、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「IBM Integration Designer」 > 「アンインストール」をクリックします。
4. 「パッケージのアンインストール」ページで、アンインストールする IBM Integration Designer および関連するパッケージを選択します。

**ヒント:**  前の手順で「スタート」メニュー（「スタート」 > ... > 「アンインストール」）から Installation Manager を開始した場合は、「パッケージのアンインストール」ページで、使用している IBM Integration Designer のエディションがアンインストールの対象として事前に選択されています。

DB2<sup>®</sup> Express を使用する必要がなくなった場合、または IBM Integration Designer を再インストールする場合は、「IBM DB2 Express」オプションを選択して、DB2 Express をアンインストールしてください。

**注意:**

**DB2 Express** をアンインストールするオプションを選択するのは、**DB2 Express** を使用している製品が他にないことが分かっている場合に限ってください。このオプションを選択すると、他の製品 (リモート・システム上の製品を含む) がこのシステム上の **DB2 Express** を使用する可能性がある場合でも、すべての **DB2 Express** データベースとデータベース資産が削除されます。

5. 「要約」ページで、アンインストールするパッケージのリストを確認し、「アンインストール」をクリックします。アンインストールが終了すると、「完了」ページが開きます。
6. 「終了」をクリックしてウィザードを終了します。

IBM Integration Designer がアンインストールされると、IBM Integration Designer に対して拡張されたプロファイルはすべて除去されます。これらのプロファイルには、IBM Integration Designer に対して拡張されたすべての WebSphere Application Server プロファイルが含まれます。

## サイレント・アンインストール

IBM Integration Designer 製品パッケージをサイレント・アンインストール・モードでインストールできます。サイレント・モードでアンインストールするときは、ユーザー・インターフェースは使用できません。

**関連情報:**

 [IBM Installation Manager インフォメーション・センター](#)

## コマンド行を使用したサイレント・アンインストール

Installation Manager をコマンド行モードで使用して、IBM Integration Designer をアンインストールできます。

Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じます。

アンインストールするには、インストール時に使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

コマンド行を使用して IBM Integration Designer をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. コマンド・プロンプトを開き、ディレクトリーを Installation Manager の下の `/eclipse/tools` ディレクトリーに変更します。

**重要:** Windows 7、Windows Vista、または Windows Server 2008 を実行している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択してコマンド・プロンプトを開始します。

2. 以下のコマンドを適切に置換して、コマンドを実行します。

```
imcl uninstall list_of_product_IDs -installationDirectory installationDirectory
-log logLocation
```

- a. ***list\_of\_product\_IDs*** をアンインストールする製品の ID のスペースで区切られたリストに置き換えます。

表 7. 製品 ID

製品	製品 ID
IBM Integration Designer	com.ibm. integration. designer.v80
Installation Manager	com.ibm.cic.agent

- b. *installationDirectory* を製品のインストール場所に置き換えます。
  - c. *logLocation* を、情報を記録する場所およびファイル名に置き換えます。
3. テスト環境もアンインストールする場合、適切な置き換えを行い、同じコマンドを再び実行します。

```
imcl uninstall list_of_product_IDs -installationDirectory testInstallationDirectory
-log logLocation
```

- a. *list\_of\_product\_IDs* をアンインストールする製品の ID のスペースで区切られたリストに置き換えます。

**重要:** DB2 Express のインストール済み環境は、複数の製品 (リモート・システム上の製品を含む) に使用されている場合があります。DB2 Express をアンインストールすると、DB2 Express のデータベースとデータベース資産がすべて削除されます。

表 8. テスト環境用の製品 ID

製品	製品 ID
IBM BPM Advanced: Process Server	com.ibm. bpm.PS.V80
IBM Business Monitor	com.ibm. websphere. MON.V80
WebSphere Application Server Network Deployment	com.ibm. websphere. ND.v80
DB2 for Linux (32 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP97.linuxia32
DB2 for Linux (64 ビット版)	com.ibm. ws.DB2EXP97. linuxia64
DB2 for Windows (32 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP97.winia32
DB2 for Windows (64 ビット版)	com.ibm.ws.DB2EXP97.winia64
IBM Cognos BI for Windows x86 (32 ビット)	com.ibm.ws.cognos.v1011.winia32
IBM Cognos BI for Windows x64 (64-ビット)	com.ibm.ws.cognos.v1011.winia64

- b. *installationDirectory* を製品のインストール場所に置き換えます。
- c. *logLocation* を、情報を記録する場所およびファイル名に置き換えます。

Installation Manager により、リストした製品がアンインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き出されます。

#### 関連資料:

 [imcl のコマンド行引数](#)

## 応答ファイルを使用したサイレント・アンインストール

応答ファイルを作成し、その応答ファイルを使用して IBM Integration Designer をアンインストールするコマンドを実行できます。

Installation Manager を使用してインストールしたプログラムをすべて閉じます。

アンインストールするには、インストール時に使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムにログインする必要があります。

IBM Integration Designer をサイレント・アンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. 必要な基本製品と IBM Integration Designer をアンインストールする応答ファイルを作成します。以下のディレクトリーにあるサンプル応答ファイルのいずれかをコピーし、独自の応答ファイルを作成します。

IBM Integration Designer とテスト環境の両方をアンインストールする場合: `dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.uninstall.iid.testenv.xml`

IBM Integration Designer のみをアンインストールする場合: `dvd_root/disk1/responsefiles/responsefile.uninstall.iid.xml`

2. 応答ファイル・テンプレートのテキストの指示に従ってパラメーターを変更し、独自の応答ファイルを作成します。応答ファイルは、Installation Manager でアクションを記録することによっても作成できます。応答ファイルを記録すると、Installation Manager で行った選択が XML ファイルに保管されます。Installation Manager をサイレント・モードで実行すると、Installation Manager は XML 応答ファイル内のデータを使用してインストールを実行します。
3. IBM Integration Designer とテスト環境の両方をアンインストールする場合は、以下のコマンドを実行します。

> Windows

```
IM_location¥tools¥imcl.exe input extract_location¥disk1¥responsefiles¥  
responsefile.uninstall.iid.testenv.xml -log silentuninstall.log
```

> Linux

```
IM_location/tools/imcl input extract_location/disk1/responsefiles/  
responsefile.uninstall.iid.testenv.xml -log silentuninstall.log
```

IBM Integration Designer のみをアンインストールする場合は、以下のコマンドを実行します。 > Windows

```
IM_location¥tools¥imcl.exe input extract_location¥disk1¥responsefiles¥  
responsefile.uninstall.iid.xml -log silentuninstall.log
```

> Linux

```
IM_location/tools/imcl input extract_location/disk1/responsefiles/  
/responsefile.uninstall.iid.xml -log silentuninstall.log
```

Installation Manager により IBM Integration Designer がアンインストールされ、指定したディレクトリーにログ・ファイルが書き込まれます。

## 関連情報:

 IBM Installation Manager インフォメーション・センター

## インストール・プロセスのトラブルシューティング

IBM Integration Designer のインストールまたは削除時に発生する可能性のある問題がいくつかあります。

この表には、問題、説明および解決策がリストされています。

表 9. インストールで発生する可能性のある問題。

症状	解決策
<p>IBM Integration Designer のインストール中に例外がスローされます。Installation Manager のログ・ファイルに、以下のエラーが含まれています。</p> <pre>java.io.Exception: CreateProcess: "C:¥...¥security.update.bat" error = 5</pre> <p>このエラーは、ファイル・アクセス権に問題があることを示しています。この問題は、インストール・プロセスを妨げているアンチウイルス・ソフトウェアが原因となっている場合があります。</p>	<p>このシステムでインストールを行うための十分な許可を持っていることを確認し、IBM Integration Designer のインストール中はアンチウイルス・ソフトウェアを無効にしてください。</p>
<p>テスト・サーバーが「サーバー」ビューに表示されない。</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>プロファイルが作成されたことを確認します。デフォルトのプロファイル・ディレクトリーは、以下のいずれかのディレクトリーです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Windows</b> C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer¥profiles¥</li><li><b>Windows</b> C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥profiles¥</li><li><b>Linux</b> /opt/IBM/WebSphere/AppServer/profiles/</li></ul></li><li>コマンド・プロンプトを開き、IBM Integration Designer がインストールされているディレクトリーに移動します。以下のコマンドを入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Windows</b> <b>wid.exe -clean</b></li><li><b>Linux</b> <b>./wid.bin -clean</b></li></ul></li><li>それでもサーバーが表示されない場合は、『テスト環境でのサーバーの作成』の説明に従って、新規サーバーを作成してください。</li></ol>

表9. インストールで発生する可能性のある問題。(続き)

症状	解決策
<p>再インストール時に新規プロファイルを作成できない。</p> <p>同じ場所に再インストールするか、アンインストールに失敗した後で再インストールしようとする、新規プロファイルを作成できないためにインストールが失敗する可能性があります。</p>	<p>データベースをテスト環境用に作成した場合は、新規プロファイルを作成する前に、これらのデータベースを除去する必要があります。</p> <p>そのようなデータベースがアンインストール時に自動的に除去されない場合は手動による除去を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• qesb プロファイルの場合、デフォルト・データベースは ECMNDB および QECMNDB (一方または両方) です。</li> <li>• qbpmaps プロファイルの場合、デフォルト・データベースは QBPMDB、 QPDWDB、 および QCMNDB です。</li> <li>• qmwas プロファイルの場合、デフォルト・データベースは MONITOR および COGNOSCS です。</li> <li>• qmbpmaps プロファイルの場合、デフォルト・データベースは QBPMDB、 QPDWDB、 QCMNDB、 MONITOR、 および COGNOSCS です。</li> <li>• qmesb プロファイルの場合、デフォルト・データベースは ECMNDB、 QECMNDB、 MONITOR、 および COGNOSCS です。</li> </ul>